

2015年3月期 第2四半期 決算・経営説明会

2014/11/20

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

第一生命

■ 本日のポイント	2
■ 2015年3月期 第2四半期決算・EEV	3
■ 中期経営計画「Action D」の進捗および今後の戦略	11
■ (参考)簡易的US-GAAPベース利益指標	30
■ 参考データ	35

- 2015年3月期 第2四半期決算は、従来の財務的課題への取組みの成果と、良好な経済環境により、大幅増収・増益。グループEVは、グループ各社ともにEVが増加したことで、5兆円を突破。
- 成長に向けた国内外での取組みが奏効し、中期経営計画は順調に進捗。経営目標は前倒しでの達成が見込まれるため、中期経営計画の刷新も視野に検討中。
- 資本充足率は、増資や利益の積上げにより、プロテクティブ社買収に伴い見込まれるリスク量の増加を相殺し、2014年度末迄の目標水準を堅持。
グループ経営態勢の強化に向け、日・米・亜の3極体制「持続成長トライアングル」の構築も順調に進捗。

2015年3月期 第2四半期決算・EEV

一生涯のパートナー

第一生命

第一生命グループ業績 - 業績ハイライト

一生のパートナー

第一生命

- 好調な銀行窓販と、資産運用収支の改善が業績を牽引し、連結経常収益・連結経常利益・連結純利益ともに大幅増加を達成
- 連結経常収益、連結経常利益の通期予想を上方修正

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計 (a)	前年同期比	
連結経常収益	29,752	34,627	+4,875	+16%
第一生命単体	22,082	22,568	+485	+2%
連結経常利益	1,560	2,343	+782	+50%
第一生命単体	1,718	2,240	+522	+30%
連結純利益	479	1,233	+754	+157%
第一生命単体	640	1,167	+527	+82%

<参考>

2014/8/8 発表予想	2014/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
56,070	64,090	54%
40,740	44,000	51%
2,460	3,180	74%
2,390	3,100	72%
800	800	154%
790	790	148%

第一生命グループ業績 - グループ各社の業績

一生のパートナー

第一生命

	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【豪TAL】 ⁽¹⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万豪ドル)			(億円)		
	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	前年 同期比
経常収益	22,082	22,568	+2%	6,578	10,779	+64%	1,372	1,585	+16%	29,752	34,627	+16%
保険料等収入	14,274	14,954	+5%	5,957	9,558	+60%	1,102	1,382	+25%	21,188	25,869	+22%
資産運用収益	6,150	5,888	△4%	621	1,220	+96%	158	99	△37%	6,826	7,120	+4%
経常費用	20,364	20,327	△0%	6,759	10,737	+59%	1,323	1,489	+13%	28,191	32,284	+15%
保険金等支払金	11,821	12,745	+8%	1,731	2,077	+20%	748	916	+22%	14,163	15,689	+11%
責任準備金等繰入額	3,252	3,018	△7%	4,454	8,097	+82%	251	211	△16%	7,876	11,097	+41%
資産運用費用	1,058	585	△45%	330	31	△90%	16	18	+13%	1,345	579	△57%
事業費	2,065	2,006	△3%	221	476	+115%	264	287	+9%	2,551	2,812	+10%
経常利益(△は損失)	1,718	2,240	+30%	△ 181	41	--	49	96	+96%	1,560	2,343	+50%
特別利益	17	4	△73%	--	--	--	--	--	--	17	7	△58%
特別損失	269	120	△55%	2	7	+180%	--	--	--	272	128	△53%
少数株主利益(△は損失)	--	--	--	--	--	--	--	--	--	△ 18	0	--
純利益(△は損失)	640	1,167	+82%	△ 183	27	--	29	71	+141%	479	1,233	+157%

(1) 豪TALの数値は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております

第一生命グループ業績予想 - 2015年3月期業績予想

一生涯のパートナー

第一生命

- 経常収益・経常利益の通期予想を上方修正
- 純利益は、法人税減税の影響を見極める必要があるため、業績予想を据え置き

	(億円)			(参考)
	14/3期	15/3期(予) ※2014/11/14 発表予想	増減	15/3期(予) ※2014/8/8 発表予想
経常収益	60,449	64,090	+ 3,640	56,070
第一生命単体	43,846	44,000	+ 153	40,740
第一フロンティア	14,178	17,370	+ 3,191	12,290
TAL (百万豪ドル)	2,849	3,440	+ 590	3,440
経常利益	3,047	3,180	+ 132	2,460
第一生命単体	3,076	3,100	+ 23	2,390
第一フロンティア	△ 158	△ 30	+ 128	△ 40
TAL (百万豪ドル)	139	130	△ 9	130
当期純利益	779	800	+ 20	800
第一生命単体	855	790	△ 65	790
第一フロンティア ⁽¹⁾	△ 152	△ 60	+ 92	△ 60
TAL (百万豪ドル)	90	90	+ 0	90
1株当たり配当金	20円	25円	+5円	25円

(参考: 基礎利益)

第一生命グループ	4,461	4,400程度	△ 61	-
第一生命単体	3,998	4,000程度	+ 1	3,400程度

(1) 持分考慮後(2014年3月期)

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (1)

一生涯のパートナー

第一生命

- 好調な保険販売と良好な金融環境を背景に、グループ各社ともにEVが増加

第一生命グループのEEV

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	42,947	51,554	+8,607
修正純資産	34,313	44,730	+10,416
保有契約価値	8,633	6,824	△1,808

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	1,049	1,371	+321	2,554

第一生命(単体)

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	42,685	50,691	+8,005
修正純資産	35,209	45,405	+10,195
保有契約価値	7,476	5,286	△2,189

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	896	1,000	+103	2,169

第一フロンティア生命

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	1,638	2,099	+461
修正純資産	1,344	1,479	+135
保有契約価値	293	619	+326

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	82	295	+213	223

EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (2)

一生涯のパートナー

第一生命

TAL

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	1,863	2,074	+210
修正純資産	999	1,155	+155
保有契約価値	863	919	+55

<参考> TAL(豪ドルベース)

(百万豪ドル)

	14/3末	14/9末	増減
EEV	1,957	2,179	+221
修正純資産	1,050	1,213	+163
保有契約価値	907	965	+57

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	78	75	△2	184

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減	14/3期
新契約価値	86	79	△7	193

14/3期2Q累計の新契約価値:

13/9末の為替レート(1 豪ドル=90.87円)を使用

14/3末EEV・14/3期の新契約価値:

14/3末の為替レート(1 豪ドル=95.19円)を使用

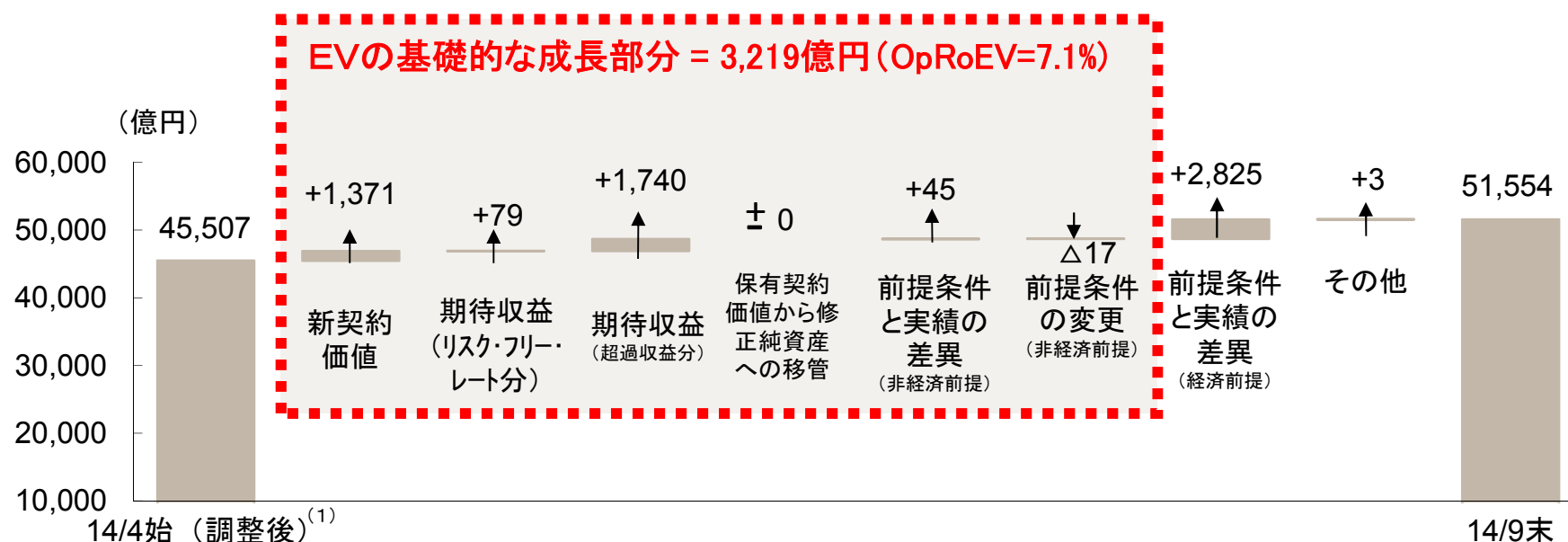
14/9末EEV・15/3期2Q累計の新契約価値:

14/9末の為替レート(1 豪ドル=95.19円)を使用

グループEEV変動要因分析

一生涯のパートナー

第一生命



<参考①> 修正純資産・保有契約価値別の内訳(項目は上グラフに対応)

(億円)

修正純資産	36,873	±0	△28	+325	△336	+75	±0	+7,820	±0	44,730
保有契約価値	8,633	+1,371	+108	+1,414	+336	△30	△17	△4,995	+3	6,824
合計	45,507	+1,371	+79	+1,740	±0	+45	△17	+2,825	+3	51,554

<参考②> 各社別の変動要因(項目は上グラフに対応)

(億円)

第一生命	45,245	+1,000	+32	+1,665	±0	+53	±0	+2,694	±0	50,691
フロンティア	1,638	+295	+23	+75	±0	△18	△1	+87	±0	2,099
TAL	1,927	+75	+23	±0	±0	+10	△16	+49	+3	2,074
グループ	45,507	+1,371	+79	+1,740	±0	+45	△17	+2,825	+3	51,554

(1) EEVの変動要因分析について詳しくは2014年11月18日公表「2014年9月末ヨーロッパ・エンベディッド・バリューの開示について」をご参照ください。

新契約価値

一生のパートナー

第一生命

【第一生命グループ】

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
新契約価値 (A)	1,049	1,371	+321
収入保険料現価 (B)	18,650	23,774	+5,124
新契約マージン (A/B)	5.63%	5.77%	+0.14ポイント

内訳

【第一生命】

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
新契約価値 (A)	896	1,000	+103
収入保険料現価 (B)	12,551	14,122	+1,570
新契約マージン (A/B)	7.14%	7.08%	△0.06 ポイント

主な要因

- + 販売量の増加
- + 事業費率等の改善

【第一フロンティア】

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
新契約価値 (A)	82	295	+213
収入保険料現価 (B)	5,375	8,681	+3,306
新契約マージン (A/B)	1.54%	3.41%	+1.87 ポイント

主な要因

- + 販売量の増加
- + 商品ミックスの変化

【TAL】

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
新契約価値 (A)	78	75	△2
収入保険料現価 (B)	1,260	969	△290
新契約マージン (A/B)	6.24%	7.80%	+1.56 ポイント

主な要因

- ▲ 販売量の減少

中期経営計画「Action D」の進捗 および今後の戦略

一生涯のパートナー

第一生命

Action D 経営目標の進捗状況

一生のパートナー

第一生命

企業価値		EV成長率(ROEV) <u>8%を超える</u> 平均的成長	EV成長率は目標を超過
		連結修正純利益(2015年度) <u>1,000億円</u>	2015年3月期 第2四半期決算 <u>1,296億円</u>
成長性	トップライン	グループ保有契約年換算保険料 2013～15年度で <u>約10%成長</u> ※上記は、2015年度末の2012年度末対比での成長率を指します	2014年9月末 <u>約9%増</u>
	成長事業比率	成長事業の連結利益貢献度(2015年度) 海外事業 <u>約30%</u> 国内事業合算 <u>約40%</u> ※上記海外事業は海外生保・アセットマネジメント事業を含み、国内事業は第一フロンティア生命・DIAMアセットマネジメント社等を含みます。	プロテクティブ社の子会社化を前提として一定の目処
健全性		グローバル大手生保に伍する資本水準 (経済価値ベース・信頼水準99.95%) <u>2014年度末までに充足</u>	資本充足目標を堅持
効率性		固定的コスト 2013～15年度で <u>約8% 削減</u>	2015年3月末までに <u>約6%削減</u> (2014年9月末見込)
株主還元		中期的な目処として、連結修正純利益に対する総還元性向は、 <u>30%程度</u> 1株あたり配当 2014年度(予想) 25円	配当予想を堅持

※上記経営目標水準は、経済環境の前提が設定時の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定しています。

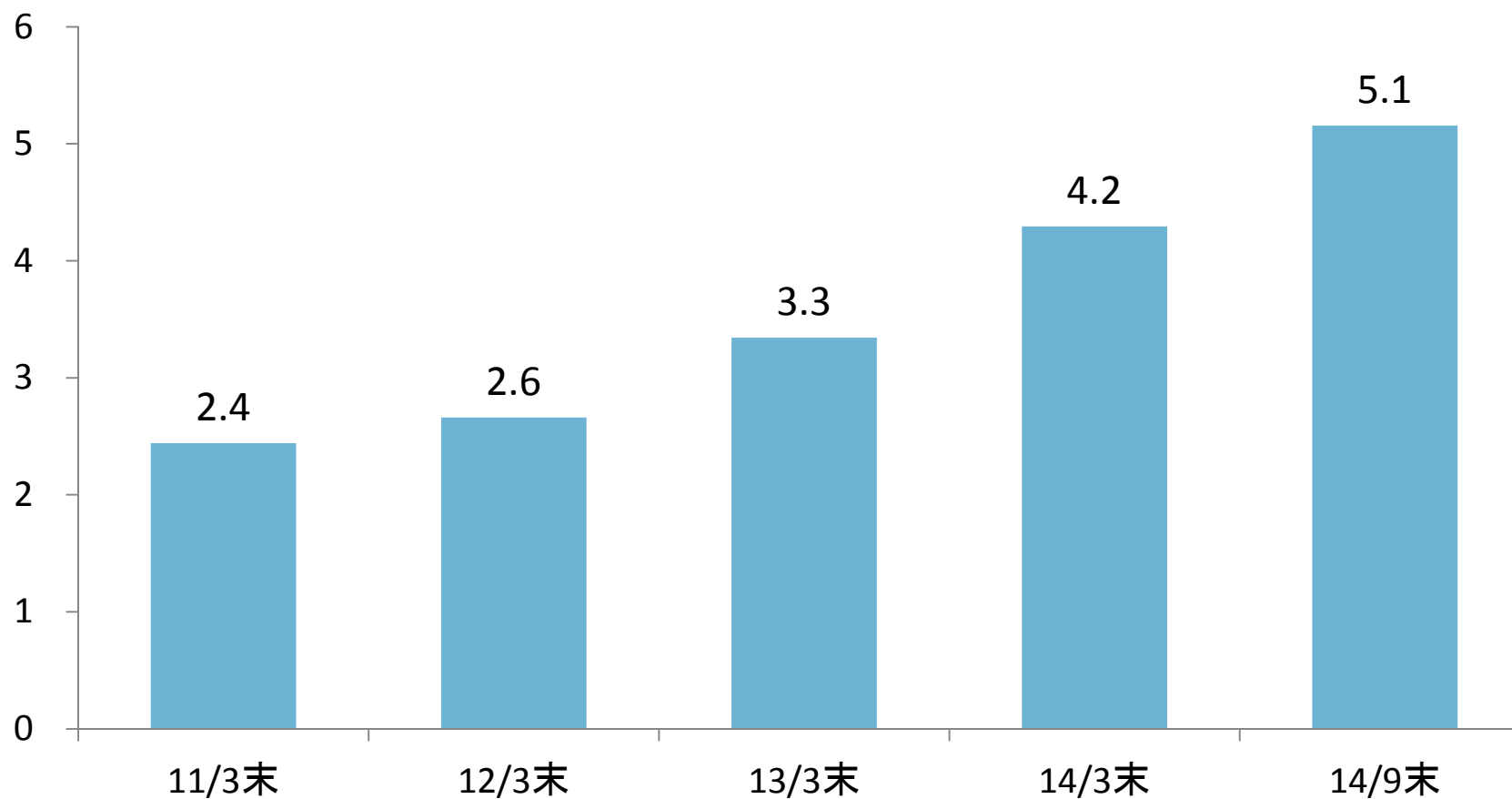
主要業績の推移(エンベディッド・バリュー)

一生涯のパートナー

第一生命

グループEEVの推移

(兆円)

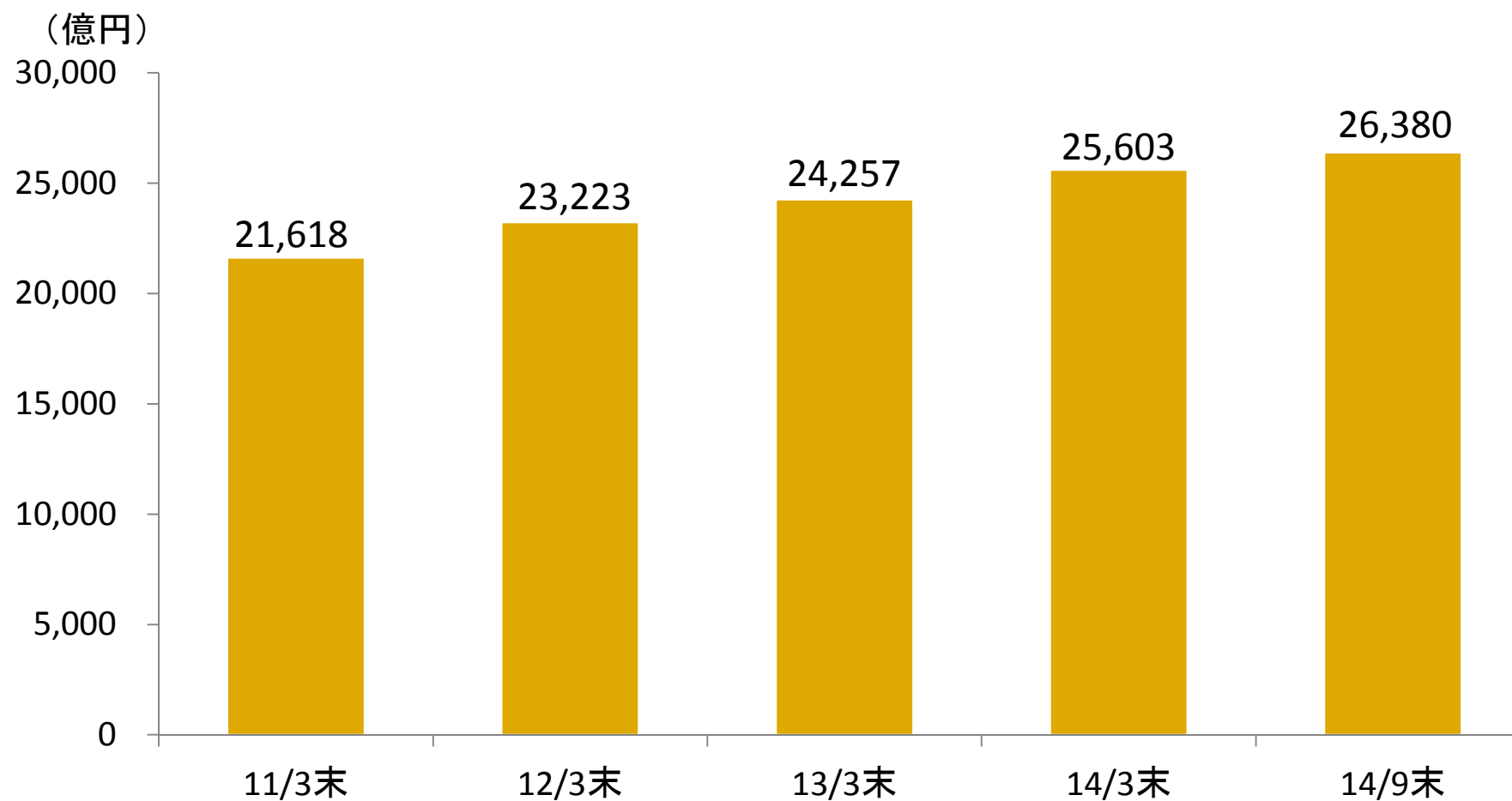


主要業績の推移(契約業績)

一生涯のパートナー

第一生命

グループ保有契約年換算保険料の推移

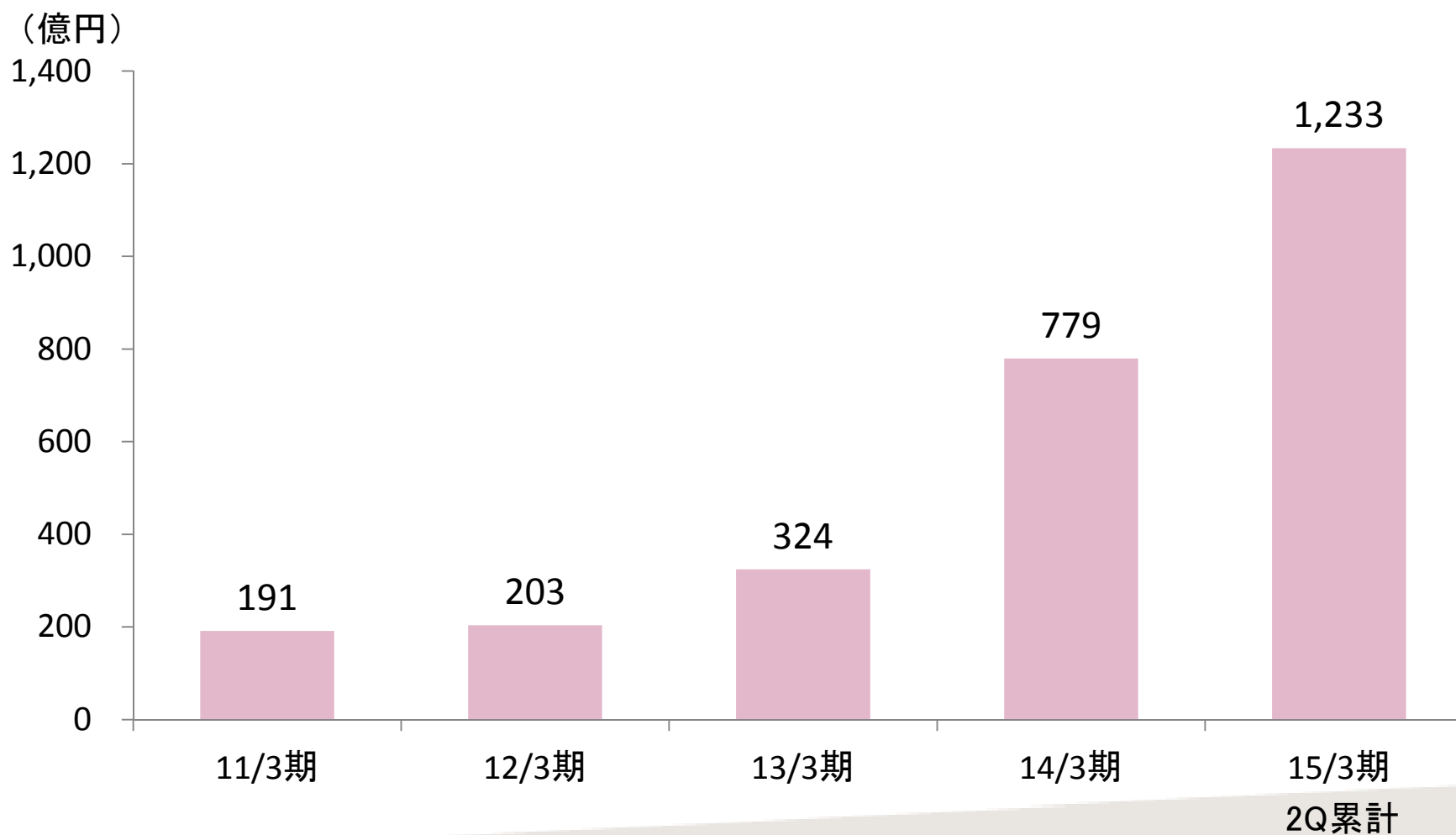


主要業績の推移(純利益)

一生涯のパートナー

第一生命

連結純利益の推移

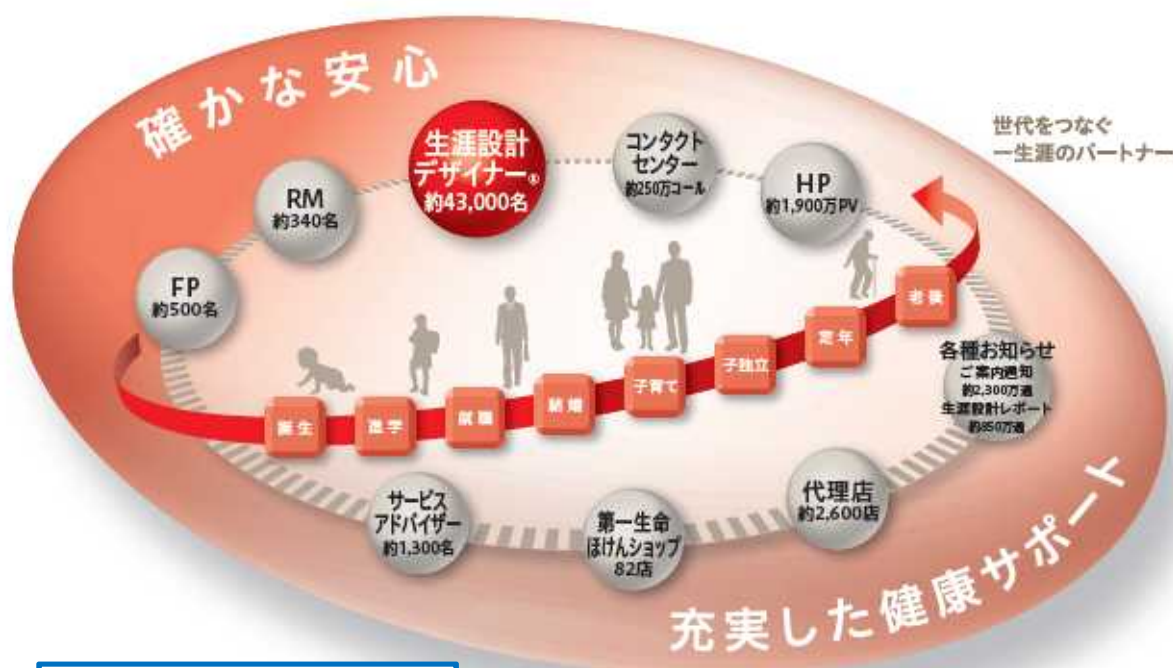


国内成長戦略「一生涯のパートナー With You プロジェクト」

一生涯のパートナー

第一生命

- 対面・非対面チャネルが一体となり、あらゆるお客さま接点を活用
- ICTの活用で各チャネルが連携し、様々なニーズに最適な商品、最適なチャネルで応える「オムニチャネル」化を推進



出口: お支払満了時

- 相続税改正を踏まえたコンサルティング(相続コンサルタント全国配置)
- 成年後見制度活用によるお手続きサポート
- 信託機能を活用したお受取方法の多様化
- 迅速なお支払い(クイックお受取りサービス)



入口: ご提案引受時

- 総合保障型・介護医療重視型の新商品導入



- 「DL Pad」活用による高付加価値のコンサルティング・スピーディーな新契約手続きの実現



中間: ご契約期間中

- 定期的なお客さまフォローの徹底

“安心の定期点検”

- 充実した健康サポートの提供



介護サービスワイド&ダブル

- 「ベストパートナー」「ダブルパートナー」制度による切れ目無いお客さまフォローの実現(複数担当者・契約引継)

国内生命保険市場における基本戦略

一生涯のパートナー

第一生命

- 当社グループの未開拓市場に対して、新子会社(ネオファースト生命)を通じてターゲティング
- 市場規模は新契約年換算保険料ベースで約5,000億円(市場全体約3兆円)と推定

お客さま	比較検討、簡単・簡便、能動的行動					高コンサル・高付加価値サービス			
販売チャネル・媒体	銀行 (平準払)	来店型 ショップ 等	ネット	通販 (TV)	チラシ DM 推進員	営業 職員	ライフ プランナー	プロ 代理店 (損保系・ 税理士等)	銀行 (一時払)
販売商品	比較的シンプルな商品					比較的複雑な商品			
主な参入生保	外資系 損保系	外資系 損保系 新興生保	ネット生保	外資系	共済	大手生保	ソニー プルデンシャル	損保系 外資系	窓販専門生保 大手生保
市場規模 イメージ 新契約年換算 保険料 (推計 ⁽¹⁾)	③					①			②
成熟度	未成熟			成熟	比較的成熟	成熟	比較的成熟		
当社グループ 市場対応 状況	新子会社(ネオファースト生命)を通じて新たに対応する市場 ⁽²⁾					第一生命			第一 フロンティア 生命

(1) 市場規模イメージ(新契約年換算保険料)は、インシュアランス生命保険統計号等から当社推計

(2) 関係当局による認可等を条件として、2014年11月25日に損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命からネオファースト生命へ商号変更(社名変更)を行う予定

第一生命(単体):販売チャネル強化に向けた取組み

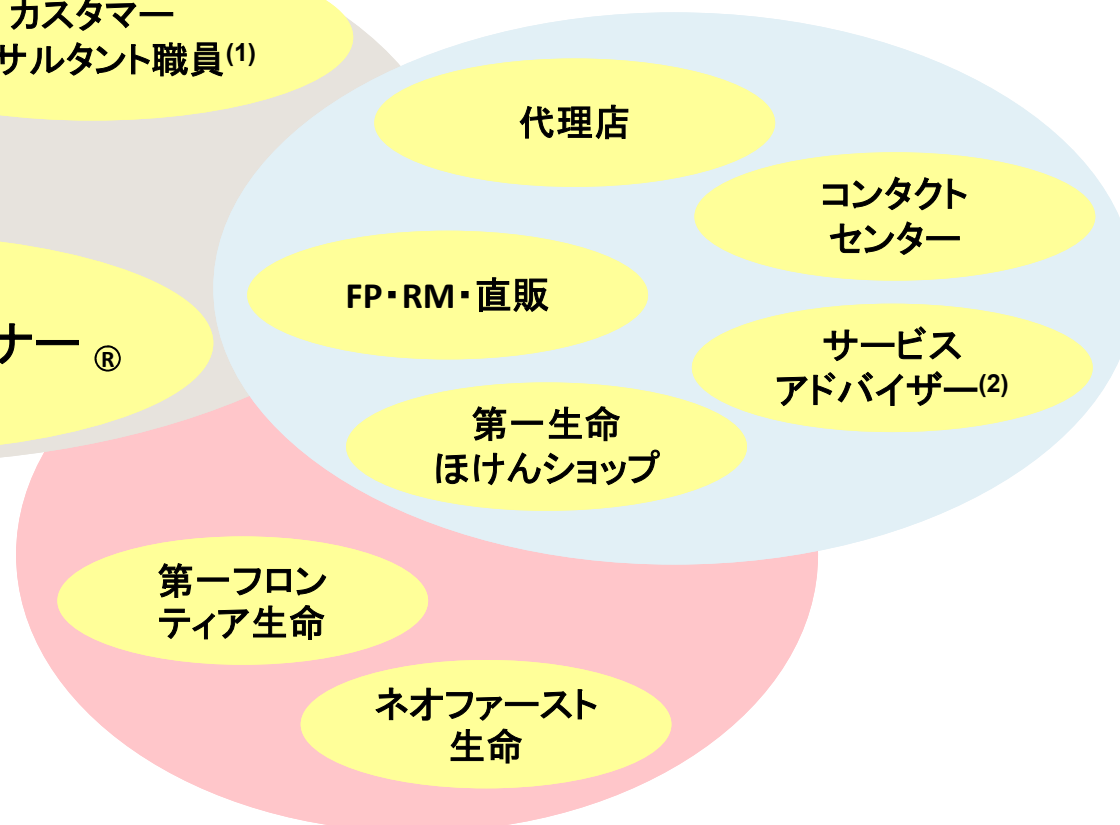
一生涯のパートナー

第一生命

営業職員チャネルの複線化



販売チャネルの多様化



生涯設計デザイナー®の高度化

- 「有職者採用」「後継者採用」「特別採用」の推進
- 5年間の育成体制(社内検定・職層別研修等)

国内グループ会社との連携も視野に

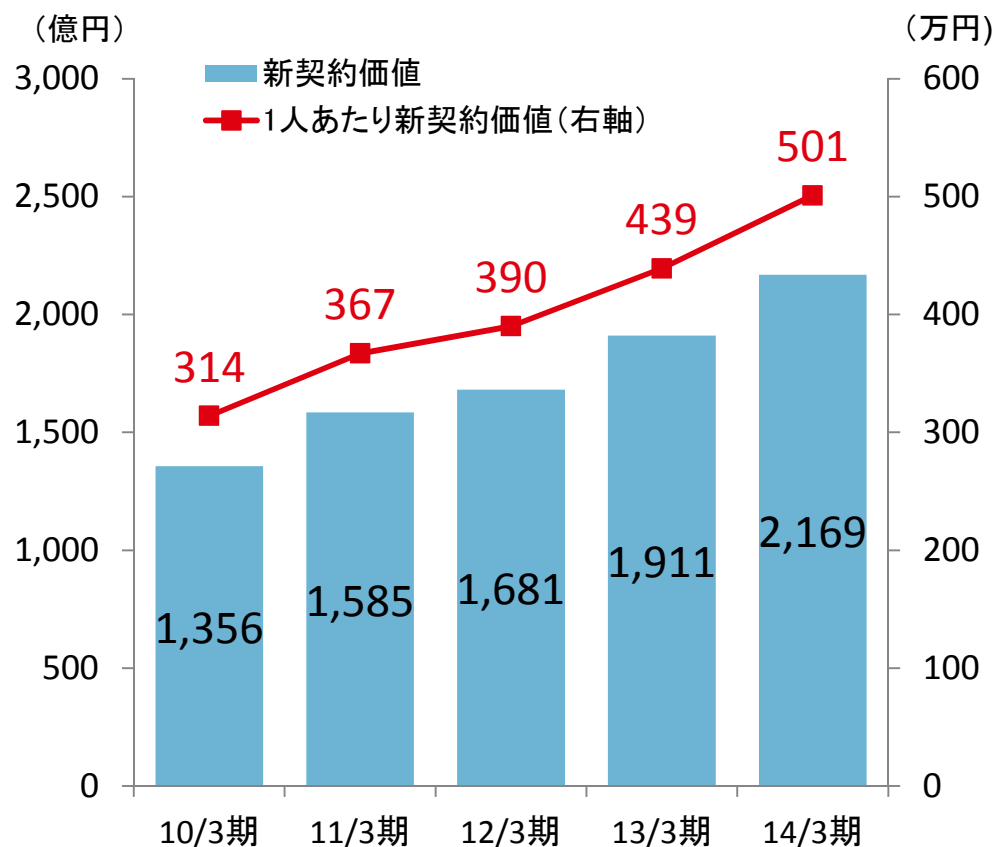
(1) 従来の営業職員チャネル・営業スタイルでは接点を得られにくいお客さまに対するフォローを担う。

(2) 全国約1,300の営業拠点に配置。各種手続きに関する知識のあるスタッフで構成。お客さま対応、営業職員教育を担う。

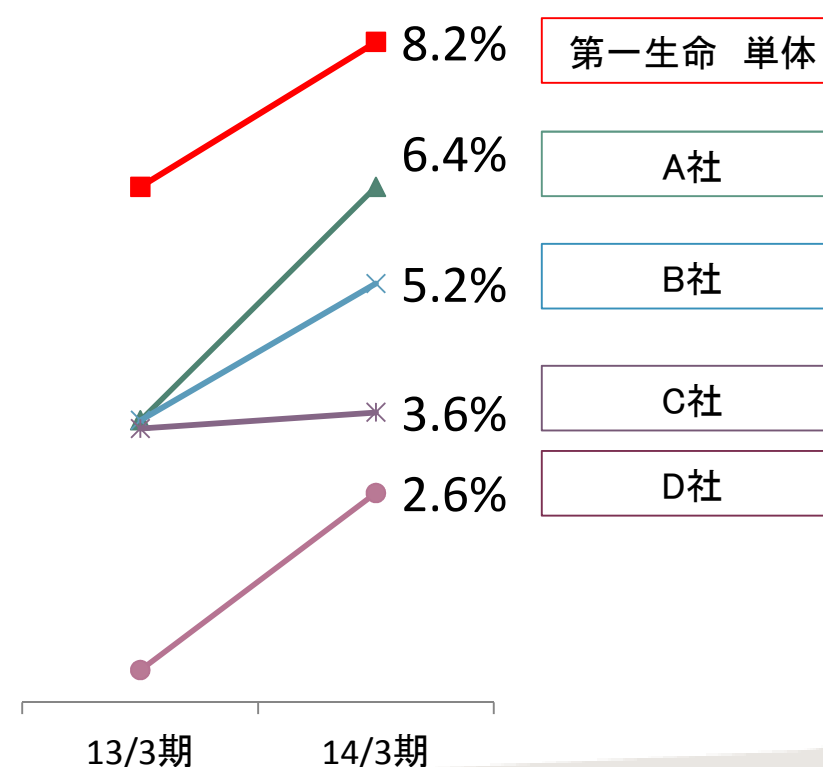
第一生命(単体)：営業職員チャネルの効率性は着実に改善

- 営業職員の厳選採用・育成強化、新商品の投入により、生産性は着実に向上
- お客さまサービスを起点とした取組により契約の品質が向上し、高い新契約マージンを実現

生産性（営業職員一人あたりの新契約価値）⁽¹⁾



国内生保の新契約マージン⁽²⁾



(1) 各期間における新契約価値を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

(2) 各社開示資料より作成。A社・B社はMCEVベース、当社・C社・D社はEEVベース。

第一フロンティア生命：好調な保険販売によりトップシェアを維持

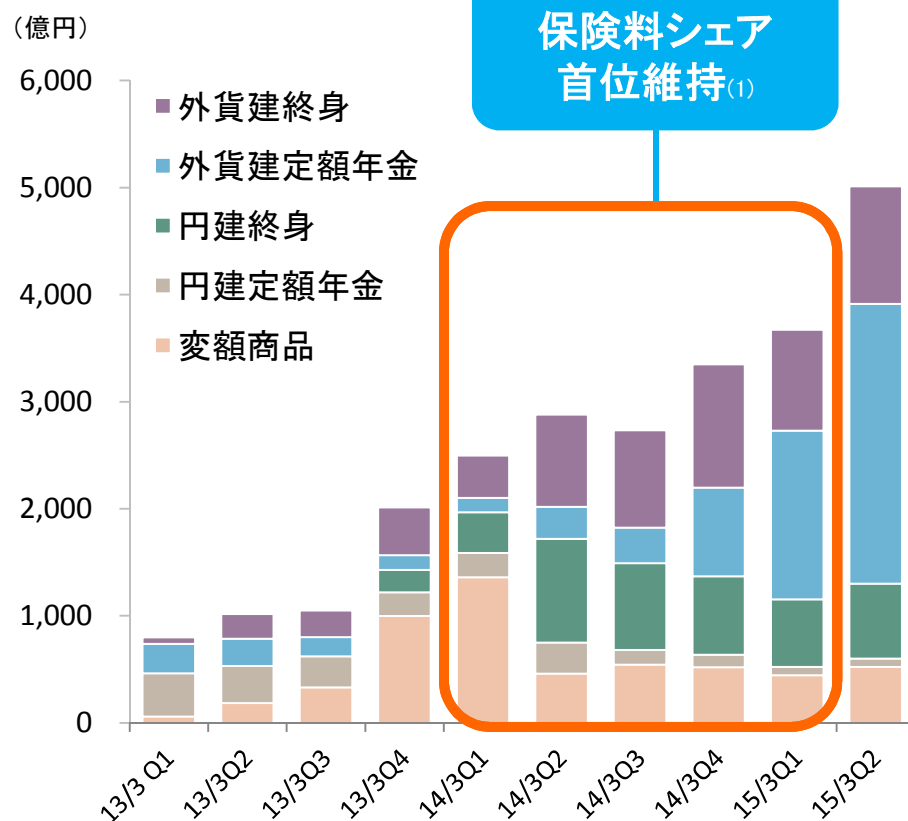
一生のパートナー

第一生命

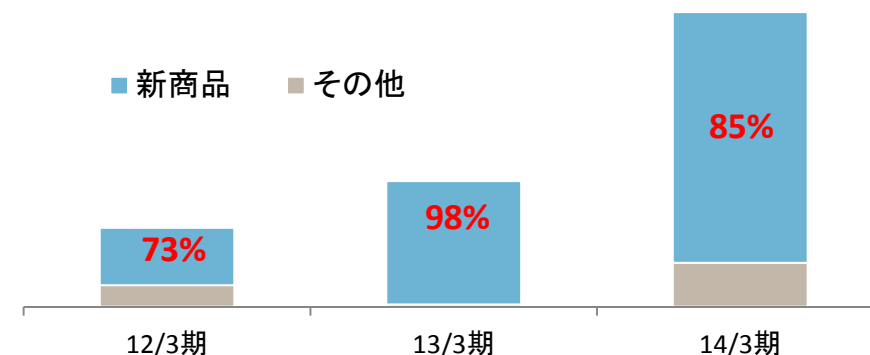
■ 好調な販売が加速し、保険料シェア首位を維持 (1)

■ 新商品の投入と販売委託先との関係強化により、平均商品委託数は倍増

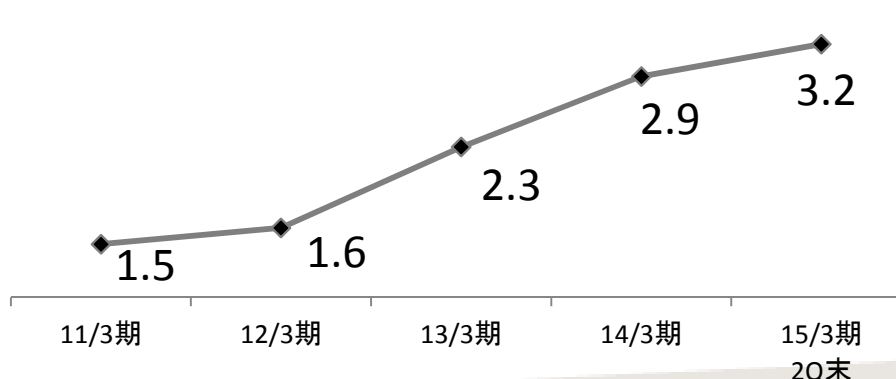
販売額（保険料ベース）



販売における新商品の割合（保険料ベース）(2)



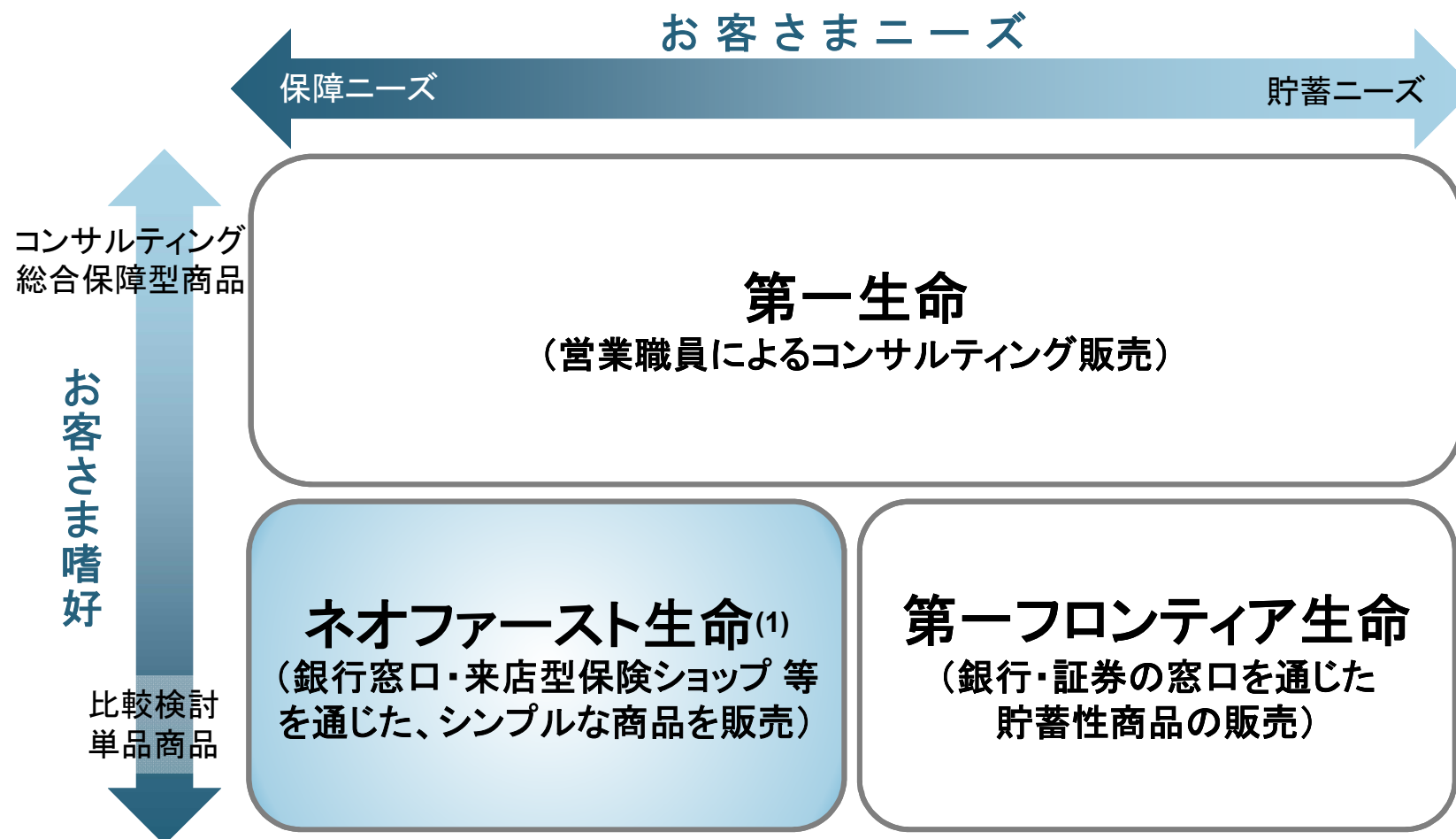
商品委託数の推移（1販売代理店あたり）



(1) 金融機関等窓販会社の2014年3月期、2015年3月期第1四半期の販売実績（第一フロンティア生命、クレディ・アグリコル、ソニーライフ・エイゴン、T&Dフィナンシャル、PGF、フコクしんらい、マスマチュアル、三井住友海上プライマリー、ハートフォード、東京海上日動フィナンシャル、アリアンツの11社）。

(2) 新商品とは、当該年度及びその前年度に販売を開始した商品。

第一生命グループにおける住み分け



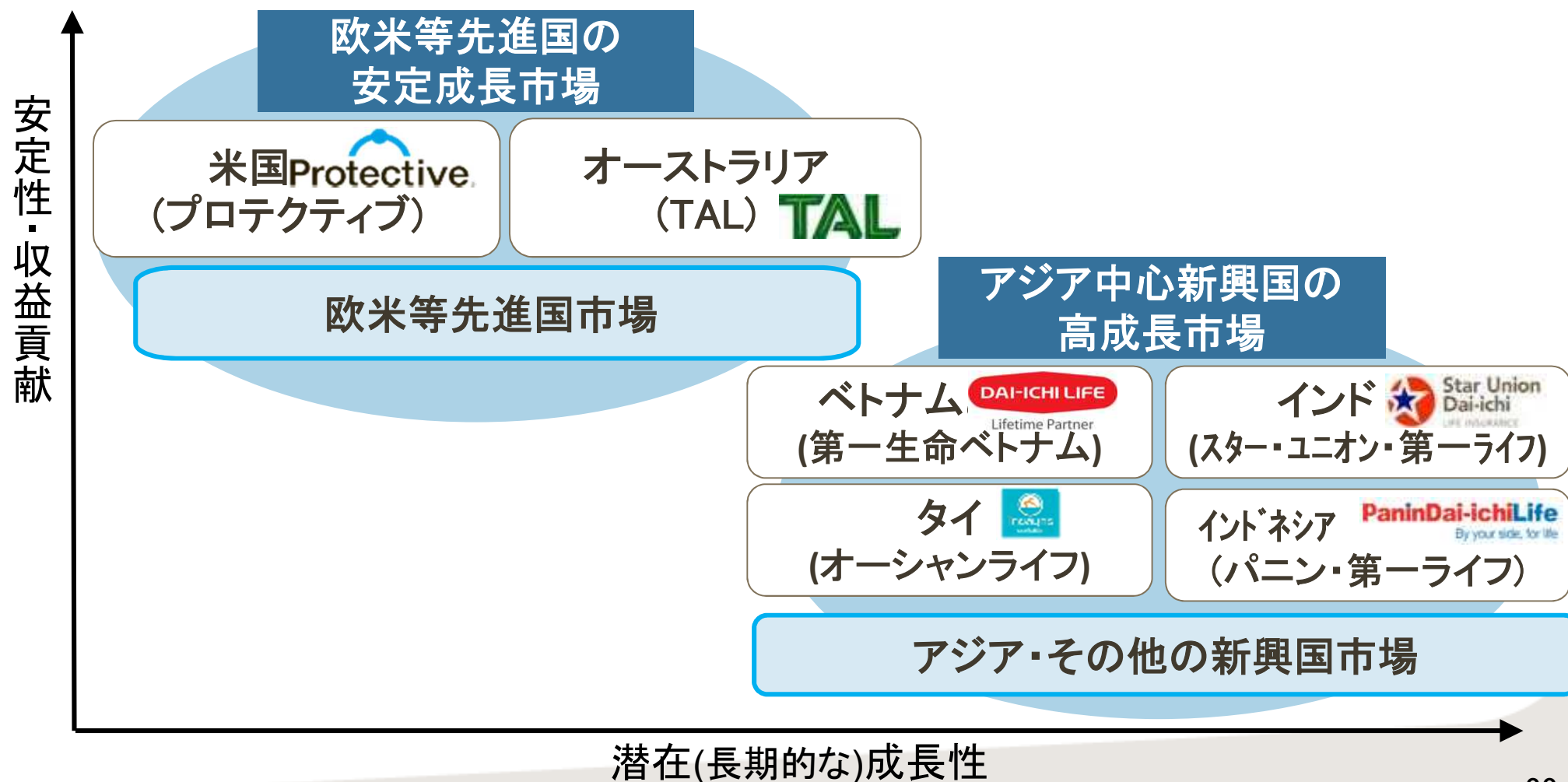
(1) 関係当局による認可等を条件として、2014年11月25日に損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命からネオファースト生命へ商号変更(社名変更)を行う予定です。

海外生保事業：地域別の取組方針イメージ(収益性×成長性)

一生のパートナー

第一生命

- 成長と収益貢献の両立に向けて、新興国・先進国での出資戦略を推進
- 戦略意義、投資基準を満たす案件について検討実施



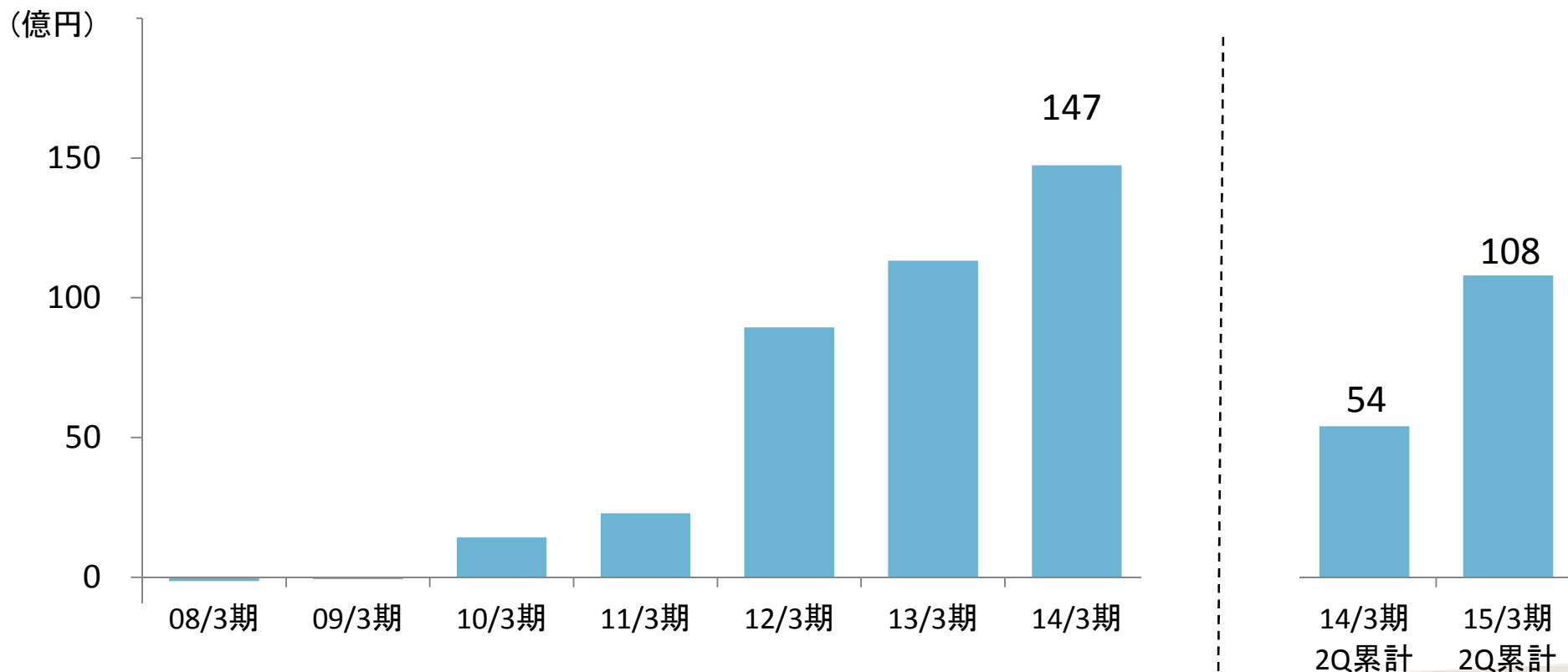
海外事業: 確かな利益成長

一生涯のパートナー

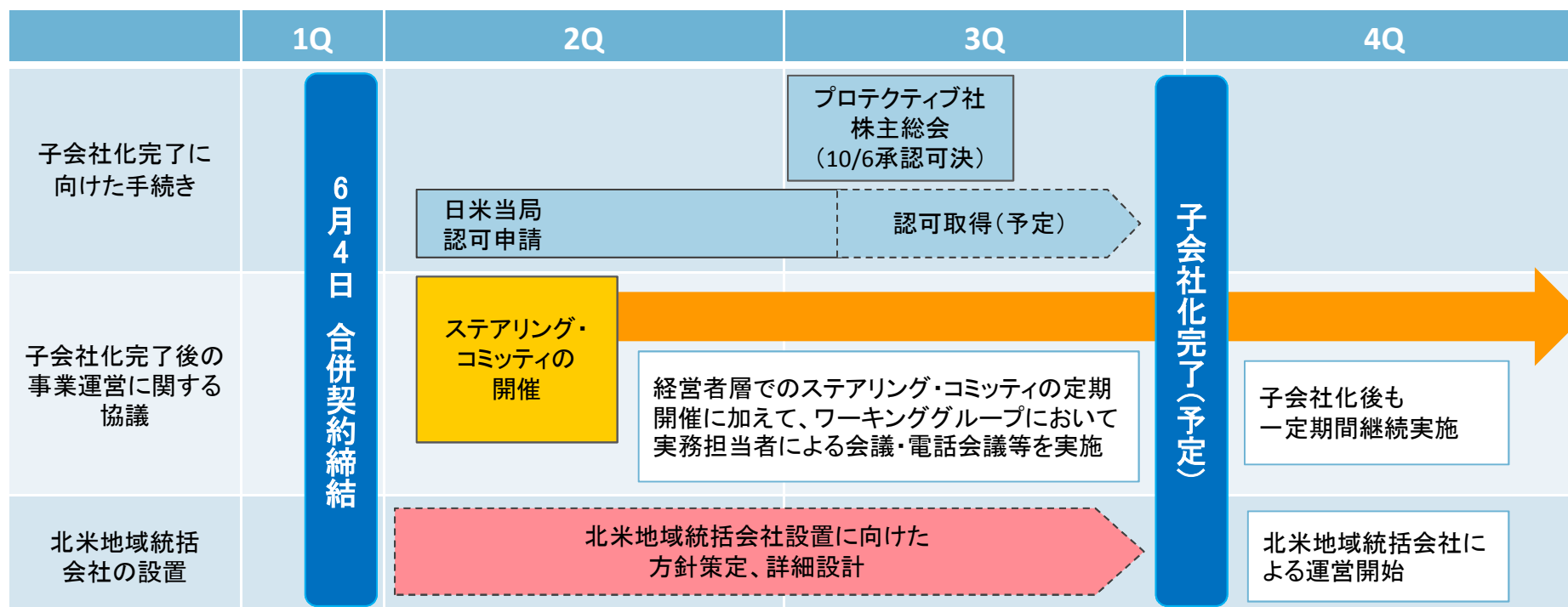
第一生命

- 海外既存事業の利益は順調に増加
- 今後も、現地経営陣との緊密な連携により、企業価値向上に取り組む

海外生保事業と海外アセットマネジメント事業の修正純利益合計推移(持分考慮後)



■ 12月～来年1月のクロージングに向けて、必要な諸手続き、事業運営に関する協議は順調に進捗

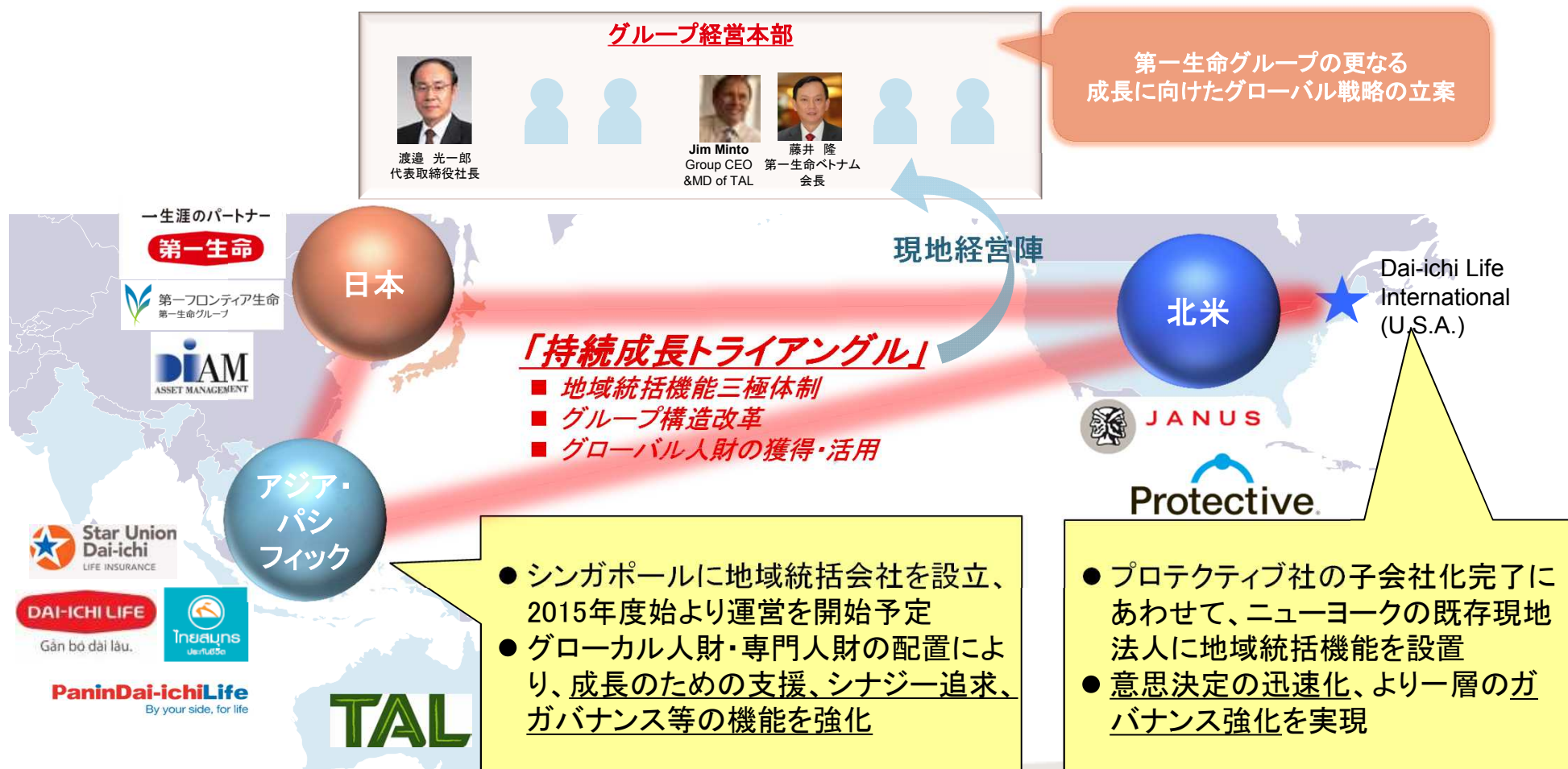


※ステアリング・コミッティ、ワーキンググループでの主な協議内容

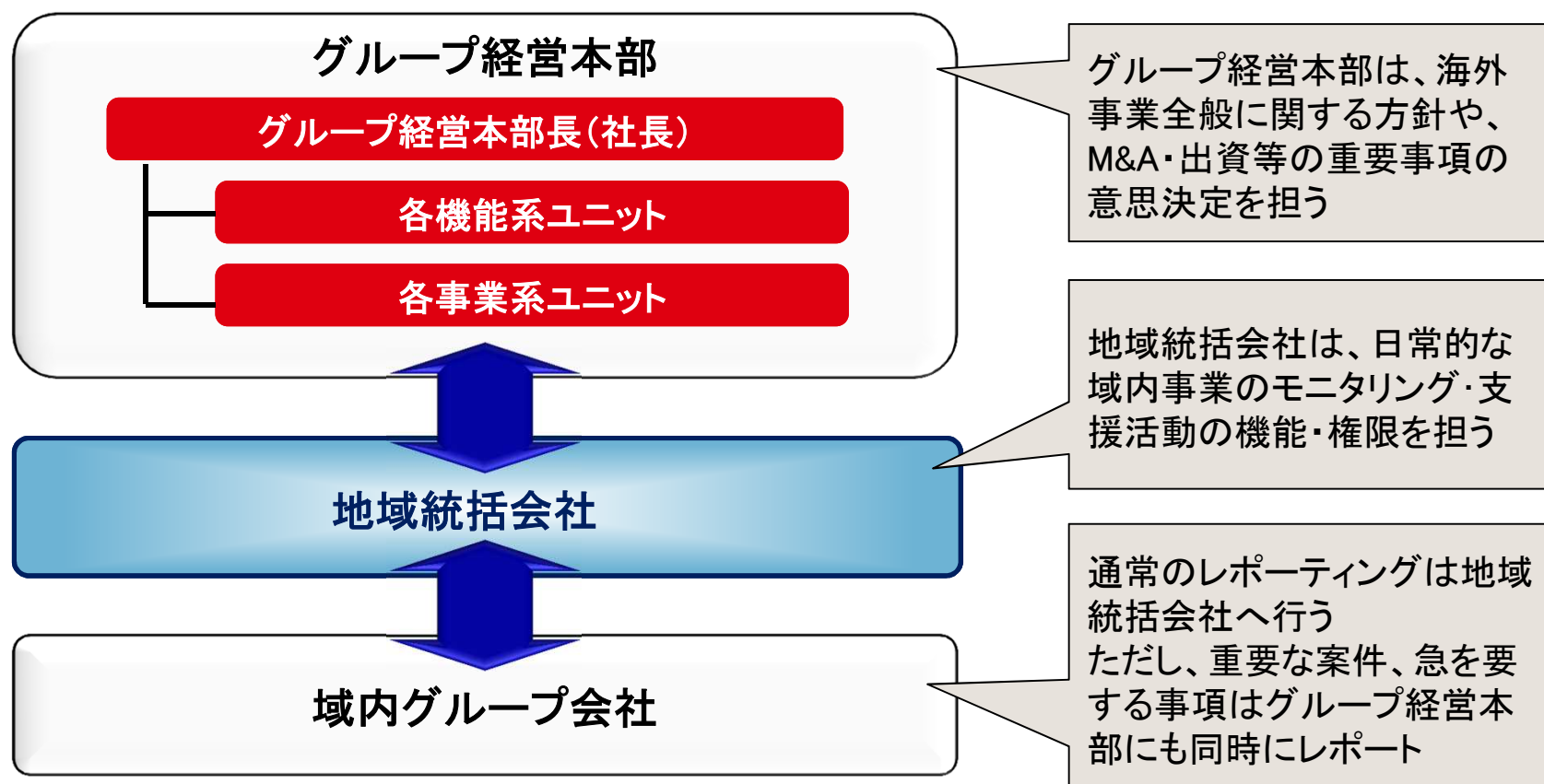
項目	主な協議内容(継続中)
ガバナンス態勢	・ 子会社化後の取締役会・委員会構成、当社からの取締役・人員派遣
事業計画・KPI	・ 子会社化後の事業計画、報酬制度に反映されるKPI項目の設定
連結会計・EV計算	・ ディスクローズに向けた連結会計、EV計算等に関する実務プロセス
協働取組	・ プロテクトィブ社新規取組に関する当社グループ会社との情報交換

グループ運営態勢：持続成長トライアングルの構築

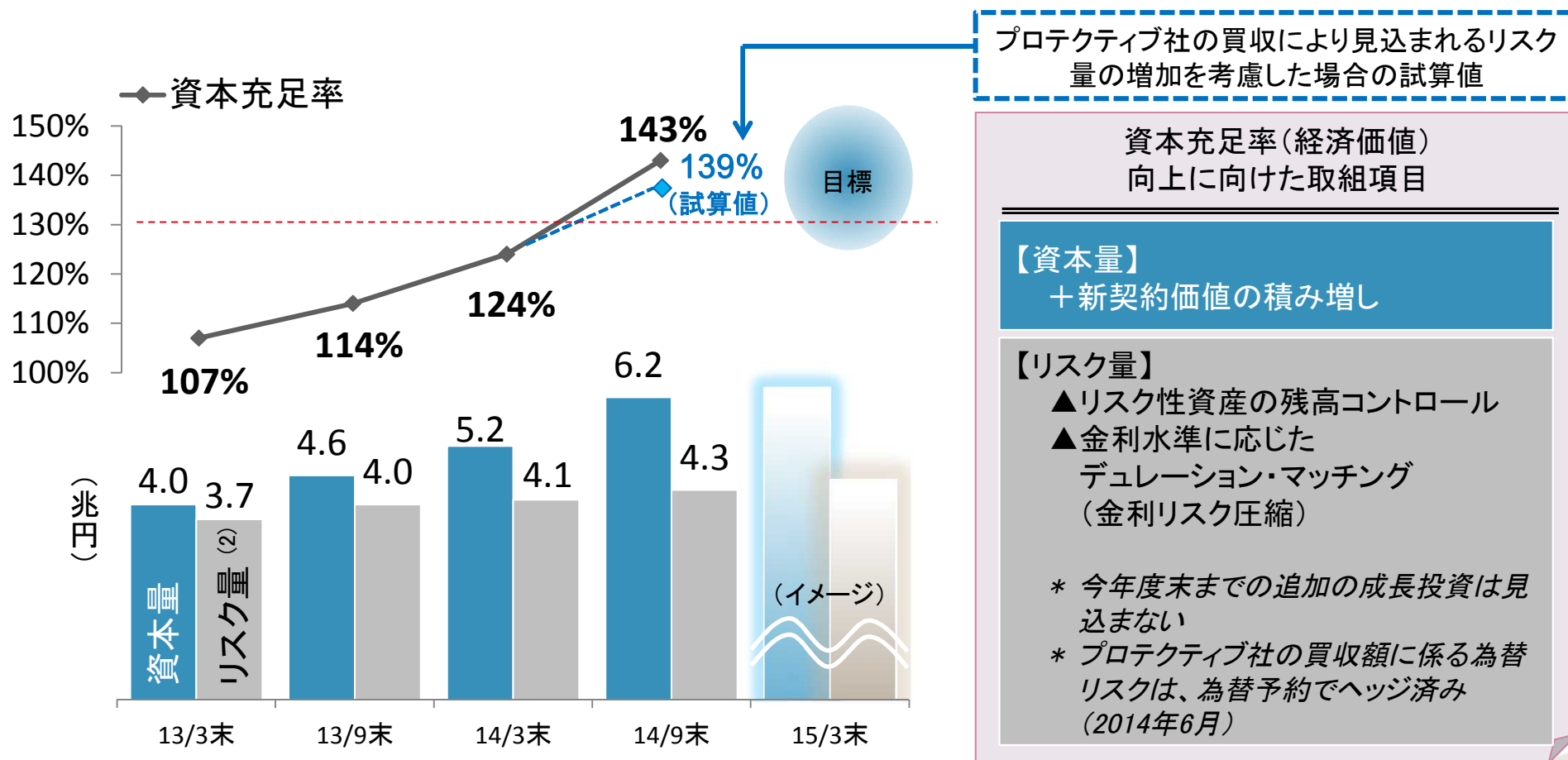
- 日本、北米、アジア・パシフィックからなる三極体制「持続成長トライアングル」を構築。
- 地域統括会社は域内グループ会社の業績向上・成長加速を通じた、域内事業の更なる発展がミッション。



- 域内に関する事項（日常的なモニタリング・支援活動）は、地域統括会社に移管・委譲
- レポーティングラインは、わかりやすくシンプルな設計



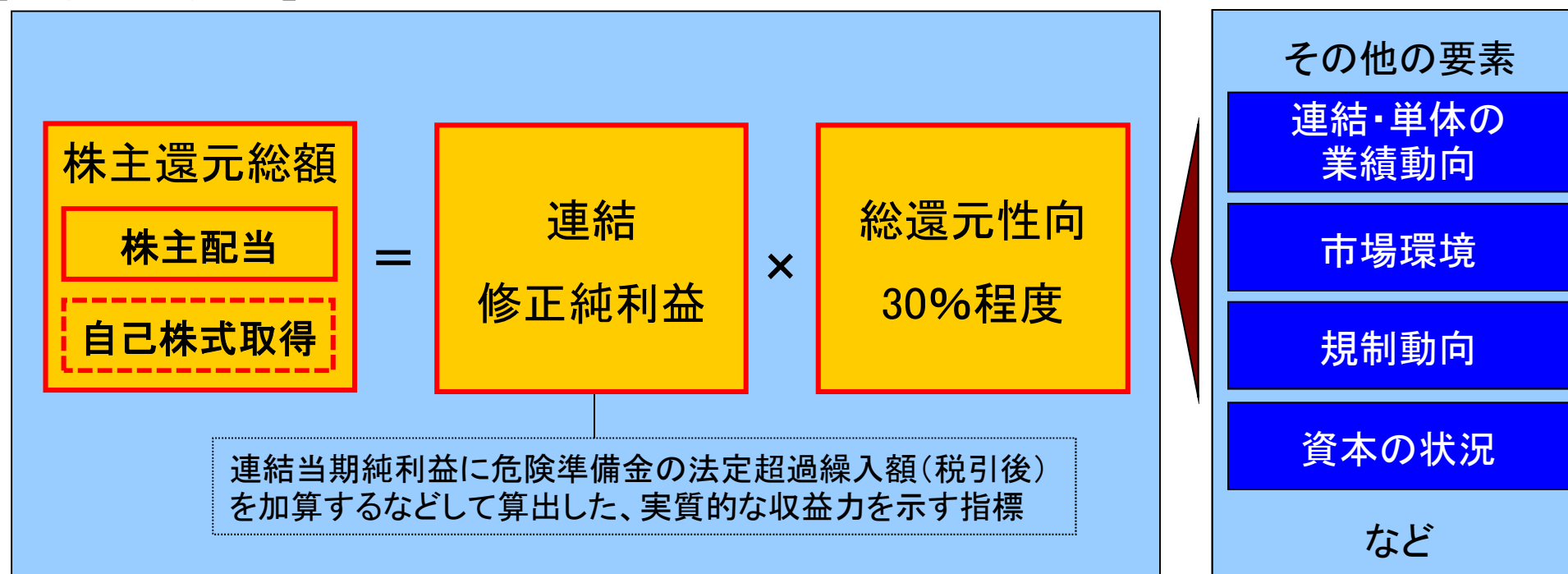
- 資本充足率は大幅に改善
- プロテクトティブ社買収に伴うリスク量増加(見込額)を考慮しても、目標水準に向けて順調に進捗



(1) 経済価値ベース、内部モデルに基づいて算出(保有期間1年)。経済環境の前提が設定時の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定

(2) リスク量は税引前ベース、信頼水準99.5%

【基本的な考え方】



※ 負債性内部留保(危険準備金繰入額、価格変動準備金繰入額)のうち、法定繰入額を超過した分を加算する(取崩しの場合はマイナスする)等。金額はすべて税後換算。

DSR経営の更なる進化

～グループを挙げた持続的価値創造の実現～

国内生命保険事業

- グループ3社による多様化するニードへの機動的対応
- 営業職員チャネルの高度化・複線化、チャネルの多様化

海外生命保険事業

- 海外生保事業の確実な成長
- グローバルマネジメント体制の確立

ERMの強化

資本水準

資本配賦運営

キャッシュフロー
マネジメント

株主還元

持株会社体制への円滑な移行も視野に

(参考)

簡易的US-GAAPベース利益指標

一生涯のパートナー

第一生命

【参考】簡易的US-GAAPベース利益指標 ～J-GAAP・US-GAAPの違い

一生のパートナー

第一生命

背景

投資家の皆さまより、J-GAAPは保守的とのご指摘あり。

→ 米国生保との比較可能性の観点から、US-GAAPに準じた調整を実施。

J-GAAPとUS-GAAPとの主な違い

	J-GAAP	US-GAAP
新契約費の取扱い	新契約費を全額費用処理 ※新契約が増加トレンドの場合は収支が悪化	新契約費の一部を、繰延新契約費(DAC)として資産計上し、将来にわたり費用処理 ※新契約の増減にかかわらず収支が安定
追加責任準備金の取扱い	部分的な積立て(例:複数年度にわたる新規積立て)も認められる	一括積立てのみ
負債性内部留保	費用処理をして積み立てる準備金あり(例:危険準備金、価格変動準備金)	費用処理をして積み立てる準備金はない

J-GAAPからUS-GAAPへの変更による、当社業績へ想定される影響

DACの影響	小(長期にわたり安定的に新契約を獲得しているため)
追加責任準備金の取扱い	大(各種準備金の繰入れがなかったとすれば、収支を大幅に押し上げる効果)
負債性内部留保の取扱い	

【参考】簡易的US-GAAPベース利益指標 ～日本・米国の保険会計における利益構造

一生涯のパートナー

第一生命

日本の保険会計(J-GAAP)、米国の保険会計(US-GAAP)の収支モデル
※保険期間5年の商品での例

【J-GAAPの場合】

- ・保険金の支払い能力の確保を重視
- ・新契約費を除いた利益が平準化

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	合計
収入（保険料）	200	200	200	200	200	1,000
支出（満期保険金）	-	-	-	-	▲700	▲700
（新契約費）	▲100	-	-	-	-	▲100
（責任準備金繰入）	▲140	▲140	▲140	▲140	560	-
収支	▲40	60	60	60	60	200

【US-GAAPの場合】

- ・期間損益の把握を重視
- ・新契約費の支出も含め、利益がある程度平準化

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	合計
収入（保険料）	200	200	200	200	200	1,000
支出（満期保険金）	-	-	-	-	▲700	▲700
（新契約費）	▲100	-	-	-	-	▲100
（責任準備金繰入）	▲80	▲155	▲155	▲155	545	-
収支	20	45	45	45	45	200

新契約費100のうち、75をDACとして5年間で均等償却(J-GAAPと比べ、1年目の収支は60改善する一方、2～5年目の収支は15悪化)

保険契約から生じる利益は200で不変

- 毎年同じボリュームの新契約を獲得した場合、一定期間が経過すると利益は一定となり、単年度でもUS-GAAPの利益はJ-GAAPの利益と等しくなる

【参考】簡易的US-GAAPベース利益指標 ～算出方法

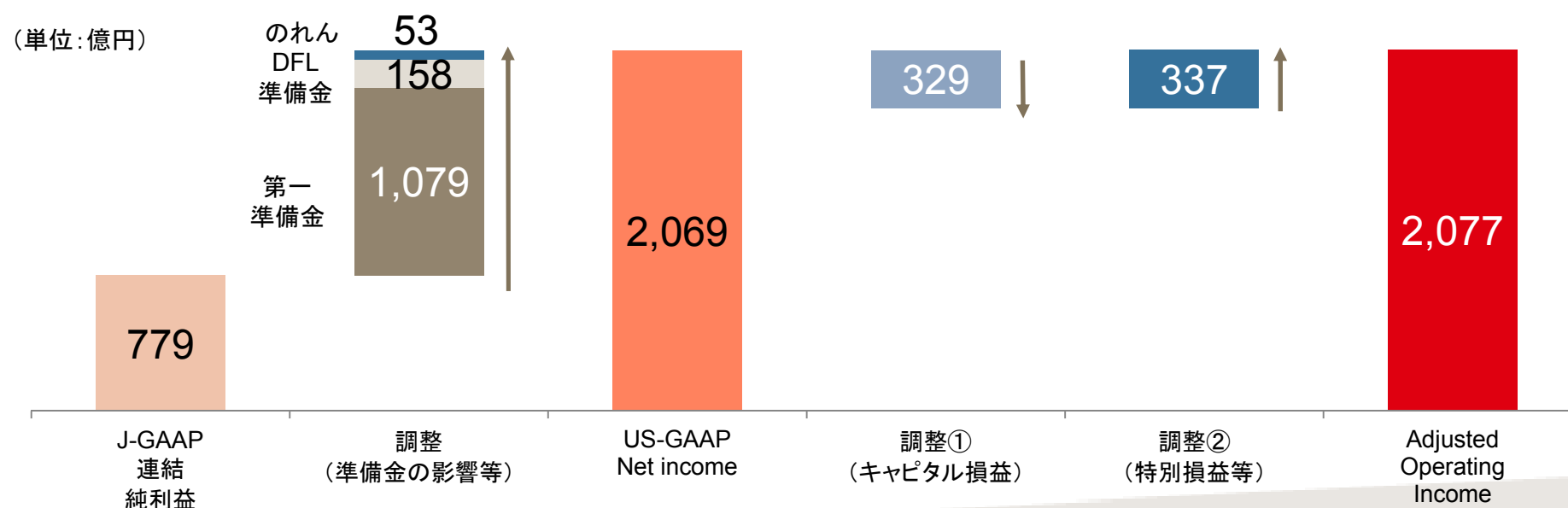
一生涯のパートナー

第一生命

簡易的US-GAAPベース利益指標の算出方法

- Net income (US-GAAP上の純利益)～各種準備金、のれん償却の影響を除外
(DACは調整しない)
- Adjusted Operating Income (修正営業利益)～保険会社の本業の収益力を示す指標。Net incomeから、キャピタル損益・特別損益など、一時的要因を除外

J-GAAPベースの純利益 と簡易的US-GAAPベースの Net income / Adjusted Operating Income (“AOI”)との関係 ※ 2014年3月期 決算値を基に算出



【参考】簡易的US-GAAPベース利益指標 ～過去の推移

一生のパートナー

第一生命

簡易的US-GAAP Net income/AOI: 過去5年間の推移

(億円)

	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期
連結当期純利益	556	191	203	324	779
調整	1,107	79	690	1,807	1,290
第一生命	676	162	446	1,413	1,079
第一フロンティア	404	▲ 82	209	356	158
のれん償却	26	—	33	38	53
簡易的US-GAAPベース Net income	1,664	271	893	2,132	2,069
調整	▲ 251	822	214	▲ 583	7
キャピタル損益	79	579	227	▲ 417	▲ 329
特別損益等	▲ 331	243	▲ 12	▲ 165	337
Adjusted Operating Income (AOI)	1,412	1,093	1,108	1,548	2,077

	10/3期	11/3期	12/3期	13/3期	14/3期
Adjusted Operating Income ÷ 修正自己資本	11.2%	8.8%	8.6%	10.9%	13.0%

※ 今回算出した簡易的US-GAAPベース Net income、及びAOIは、米国生保と利益水準面での比較の観点から作成したものであり、株主帰属利益とは別の概念(当社の株主還元は、J-GAAPベースの連結修正純利益を基に決定)。

参考データ

一生涯のパートナー

第一生命

日本の生命保険市場と第一生命

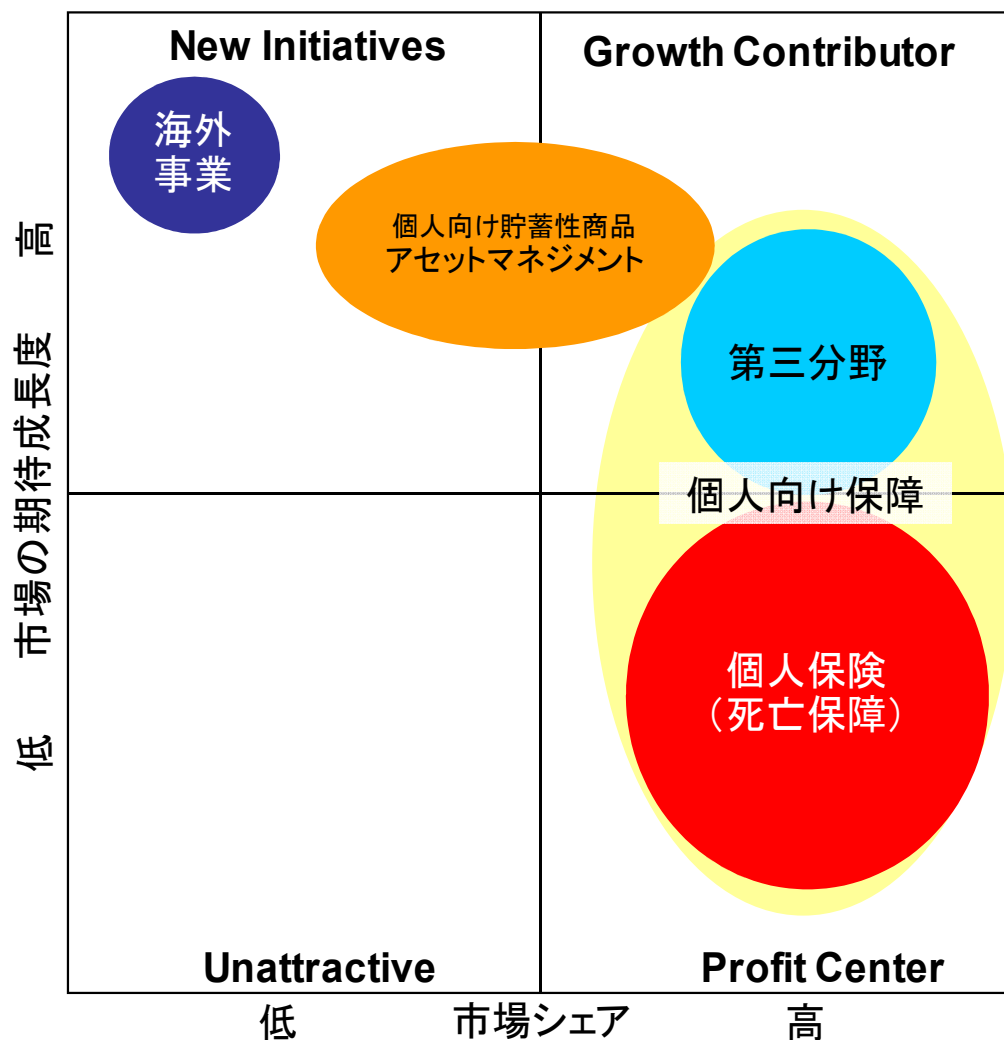
一生涯のパートナー

第一生命

第一生命グループの事業ポートフォリオと中長期戦略

一生のパートナー

第一生命



国内生保事業

死亡保障市場

- 第一分野におけるシェア向上
- 事業費効率の改善

成長市場

- 第三分野
- 個人向け貯蓄性商品

海外生保事業

- 成長性・収益性を勘案した進出先の拡大
- 既進出各国でのバリューアップ追求

アセットマネジメント事業

- DIAMアセットマネジメントの預り資産の成長
- 国内外で成長の機会を追求

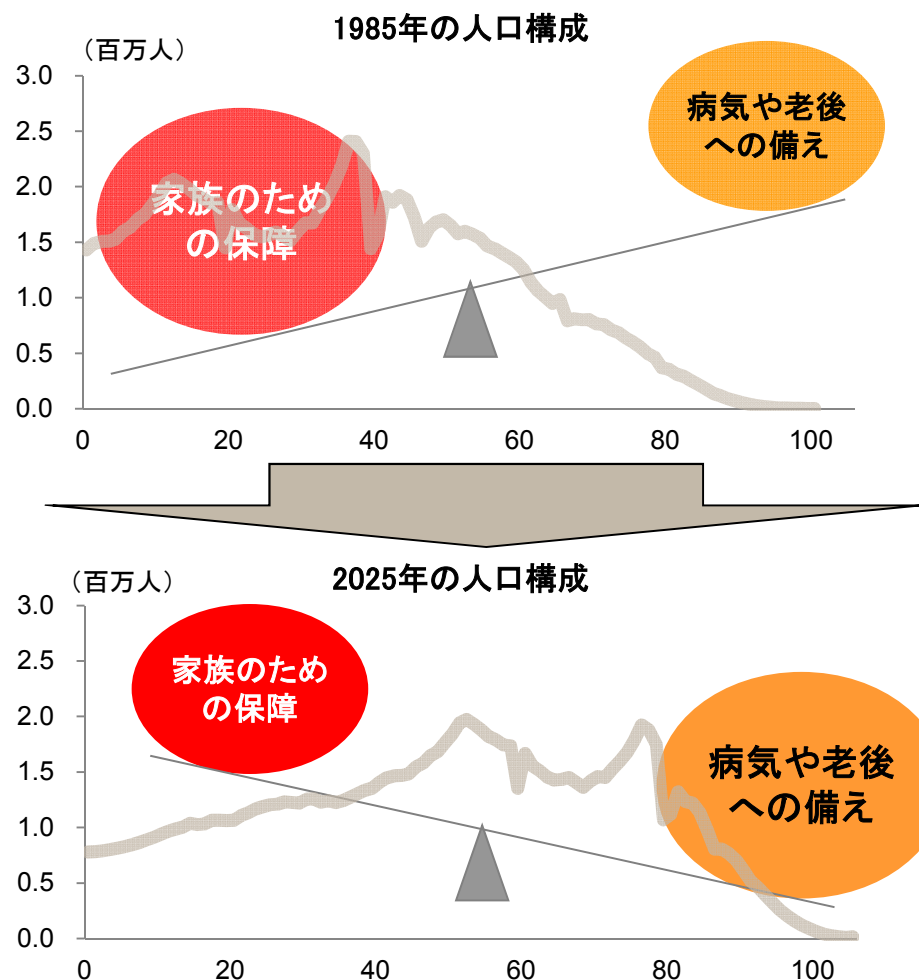
- 内部成長のみならず、M&Aなど外部成長の機会を志向

日本の生命保険市場／ニーズの変化を反映し成長続ける

一生涯のパートナー

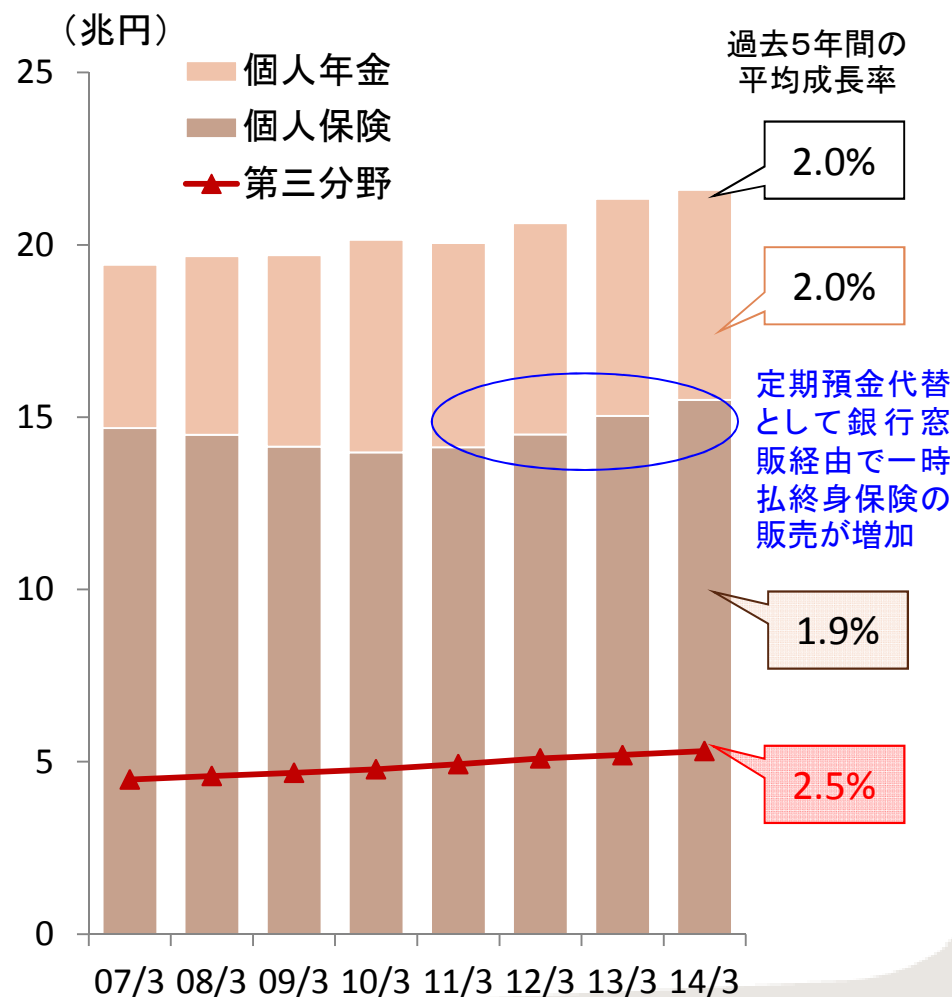
第一生命

日本の人口動態と保障ニーズの変化



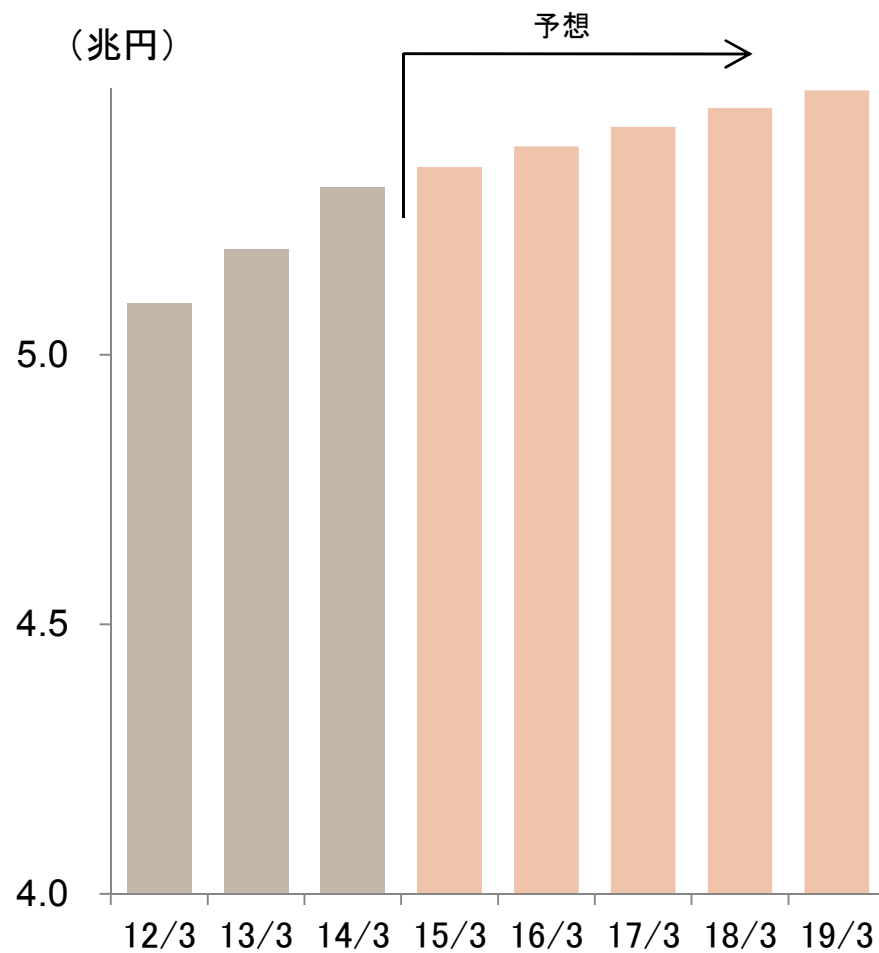
(出所) 総務省、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」を基に当社作成

日本の生保 保有契約年換算保険料の推移



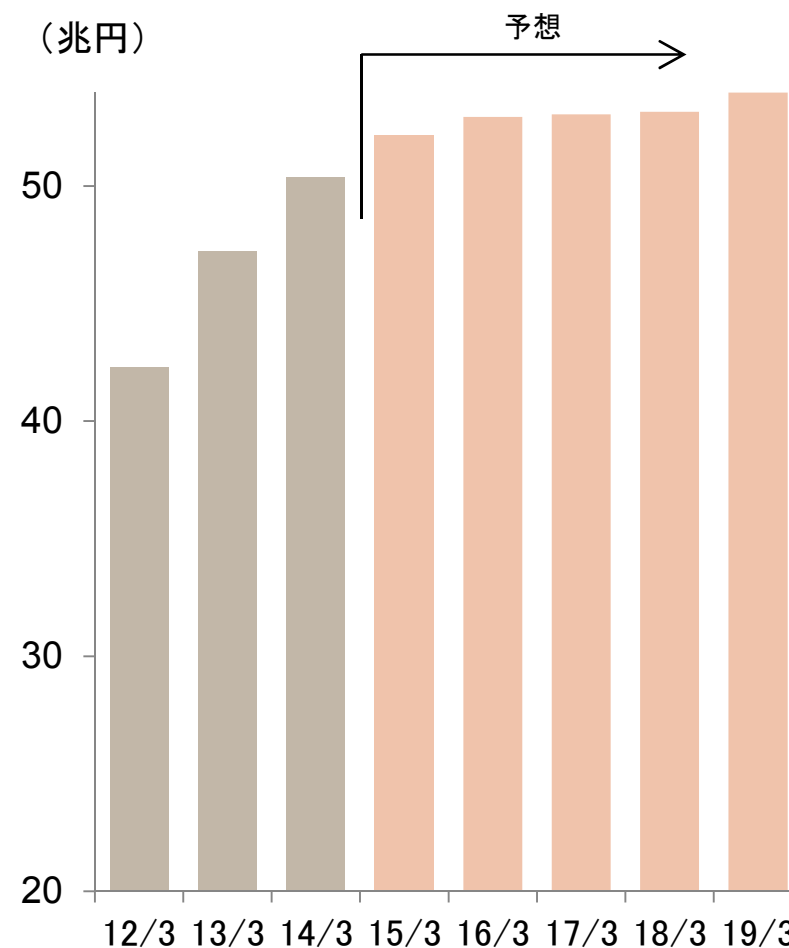
(出所) 株式会社保険研究所「インシュアランス」統計号各号、生命保険協会資料を基に当社作成

第三分野 年換算保険料の推移と予想



(出所) 当社予想

一時払個人年金資産残高の推移

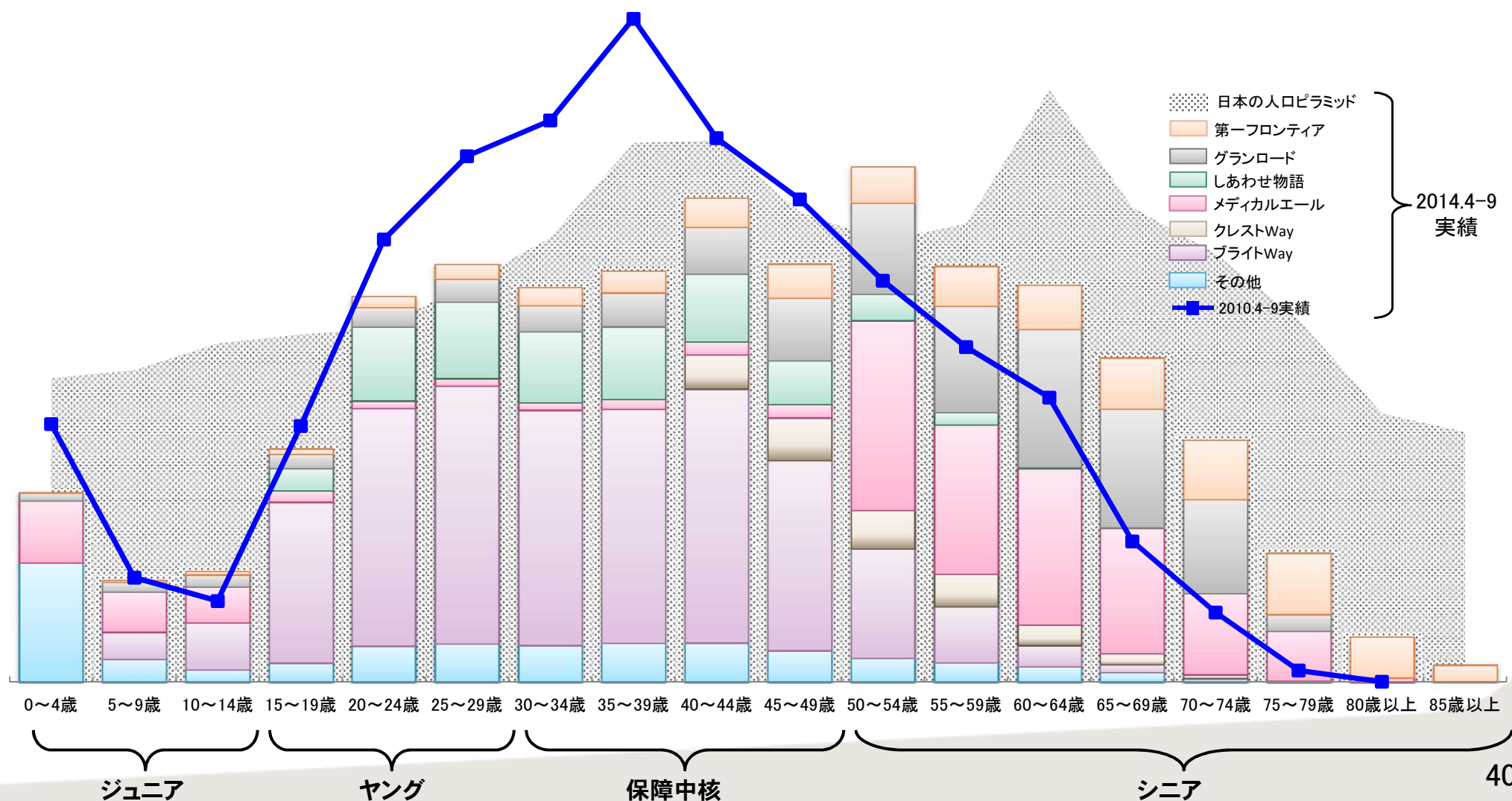


お客さまニーズを捉えた商品・サービスの機動的な投入

一生涯のパートナー

第一生命

新契約件数の被保険者年齢別分布(15年3月期第2四半期)

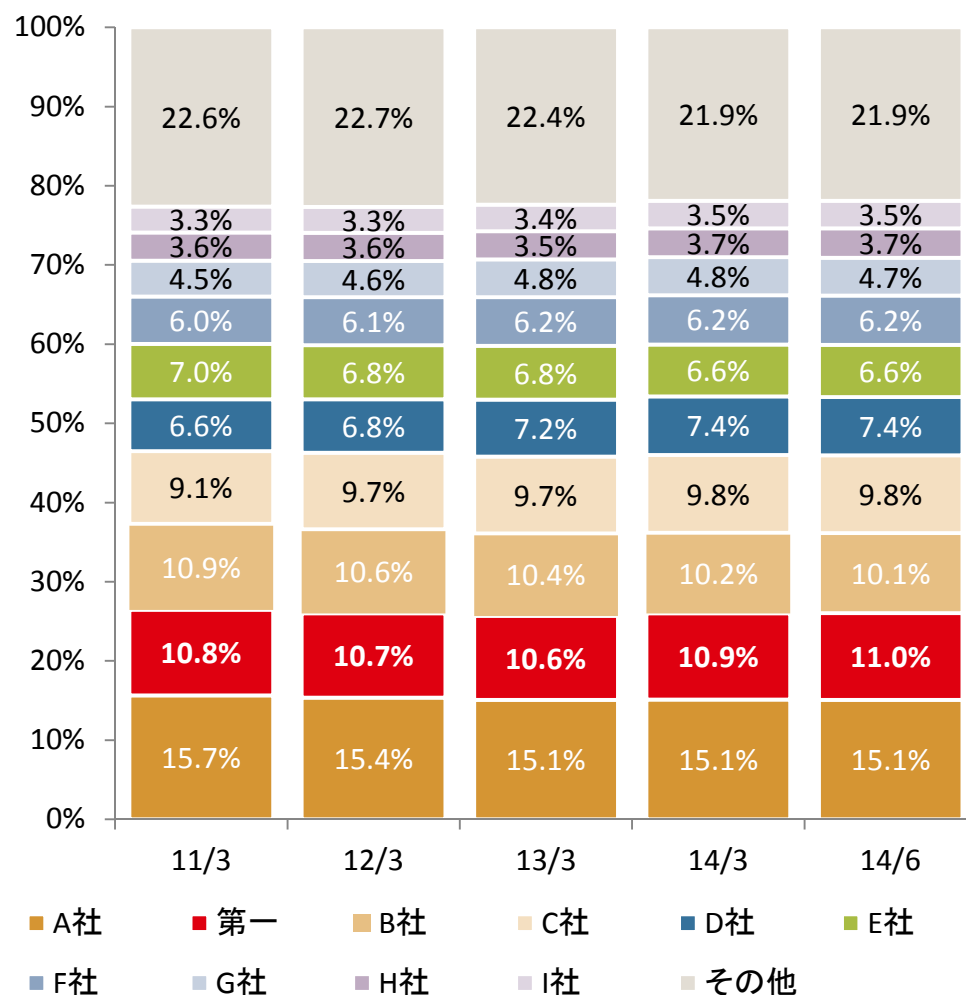


激しい競争下、相対的にシェアを維持

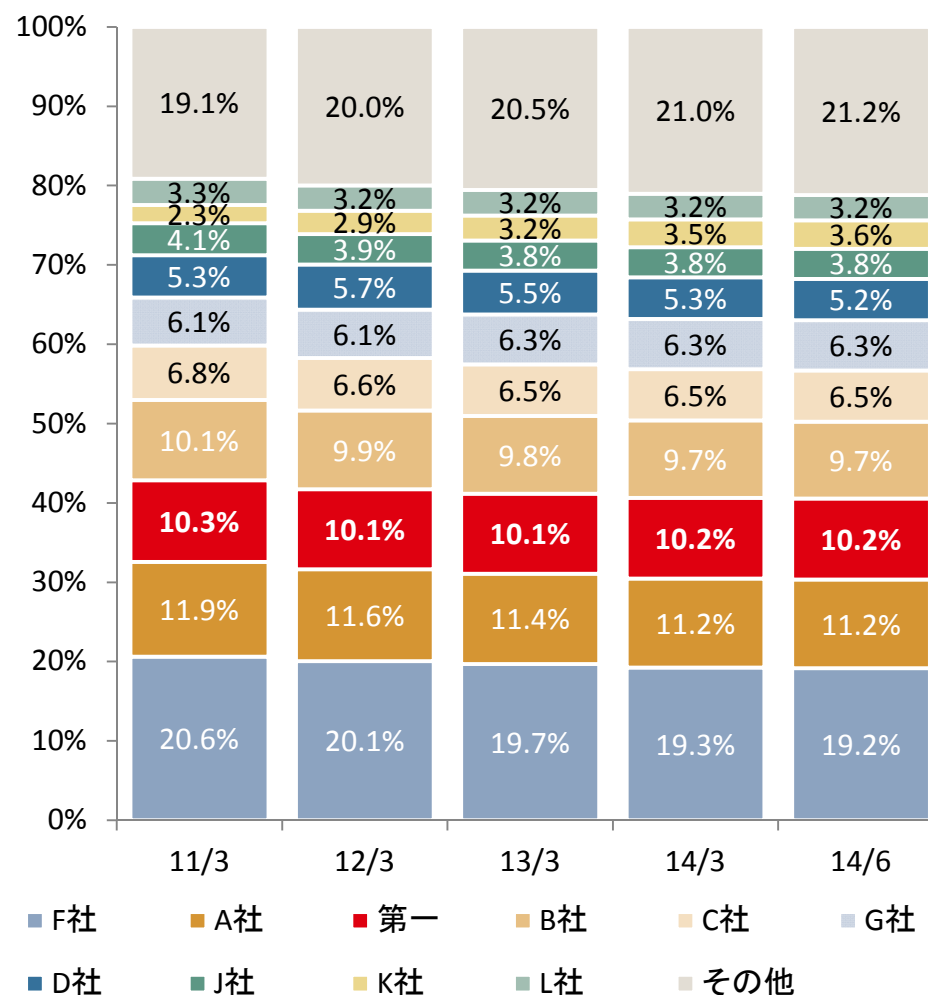
一生涯のパートナー

第一生命

保有契約年換算保険料シェア推移



第三分野 保有契約年換算保険料シェア推移



(注) 保有契約年換算保険料シェア、第三分野保有契約年換算保険料シェアはかんぽ生命を除く。

(出所) 各社決算資料、生命保険協会資料を基に当社作成

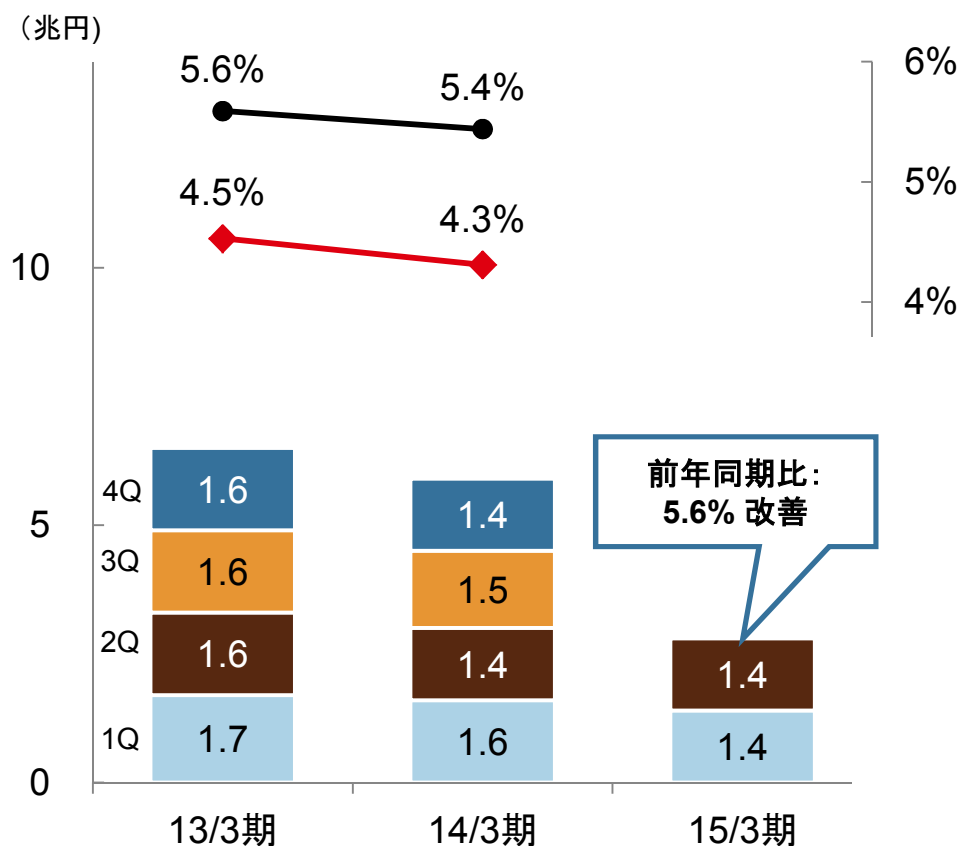
第一生命単体：解約失効高・継続率

一生涯のパートナー

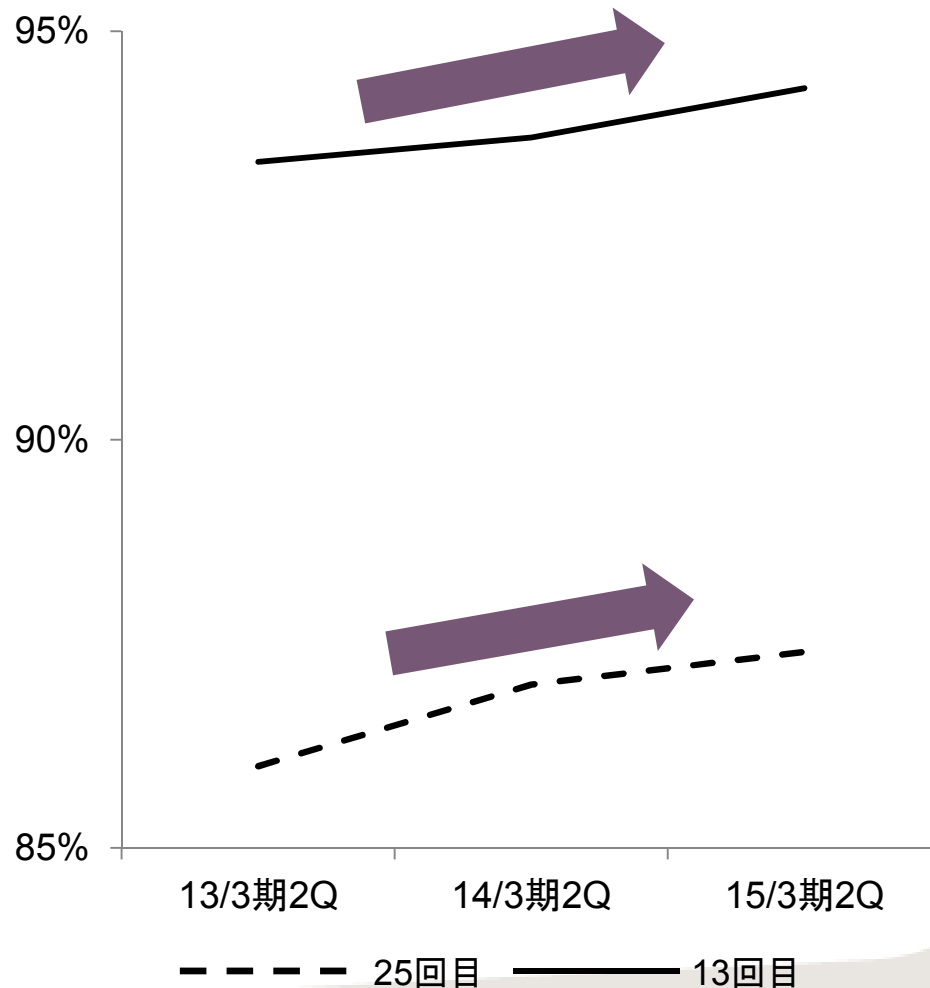
第一生命

解約失効高(個人保険・個人年金)

継続率



解約失効率(右軸): ◆ 第一生命 ● 業界平均



海外事業

一生涯のパートナー

第一生命

海外展開の現状

一生涯のパートナー

第一生命

社名	従業員数 ⁽¹⁾ (14/3末)	主力販売チャネル	主力商品	保険料収入実績 ⁽²⁾⁽³⁾ (15/3期上半期)		市場 シェア ⁽⁴⁾
					前年同期比	
第一生命ベトナム	583名	個人募集代理人	ユニバーサル保険、 養老保険	10,278億ドン (49億円)	+38.2%	8.5%
TAL (オーストラリア)	1,467名	独立アドバイザー(リテール) ホールセール(団保) コールセンター(ダイレクト)	保障性商品 (死亡・所得補償・ 高度障害等)	1,382百万豪ドル (1,315億円)	+25.4%	16.1%
パニン・第一ライフ (インドネシア)	260名	銀行窓販 個人募集代理人	ユニットリンク保険	16,386億ルピア (139億円)	-7.8%	3.1%
スター・ユニオン ・第一ライフ (インド)	2,582名	銀行窓販	養老保険 ユニットリンク保険	4,002百万ルピー (68億円)	+17.2%	0.4% (1.5%)
オーシャンライフ (タイ)	2,007名	個人募集代理人	養老保険	6,400百万バーツ (199億円)	-2.3%	2.6%

(1) 販売チャネルの人員は含まない。ただし、TAL社のダイレクト販売に関わる人員は、従業員数に含む。

(2) 対応する期間は、第一生命ベトナム社、パニン・第一ライフ社、スター・ユニオン・第一ライフ社、オーシャンライフ社は1～6月。TAL社は4～9月。

保険料実績は、第一生命ベトナム社、TAL社、パニン・第一ライフ、オーシャンライフ社は保険料等収入。スター・ユニオン・第一ライフ社は換算収入保険料。

(3) 為替は、1ドン=0.0048円、1豪ドル=95.19円、1インドネシアルピア=0.0085円、1ルピー=1.7円、1バーツ=3.12円で換算。

(4) 比較対象はベトナム市場は保険料等収入、インドネシア市場、タイ市場は収入保険料、オーストラリア市場は保有年換算保険料(保障性市場)、インド市場は初年度保険料(カッコ内は、LICを除く民間ベース)。

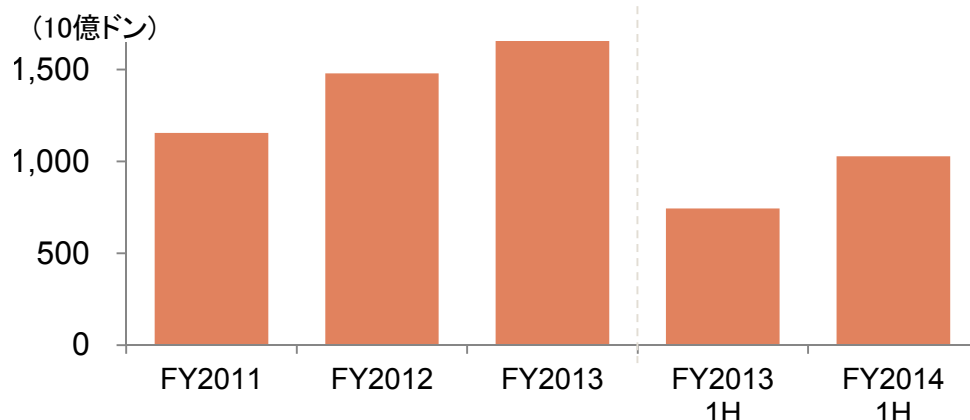
比較期間はベトナム市場、インドネシア市場、インド市場、タイ市場は2014年1月～6月、オーストラリア市場は2014年6月末。

海外市場／各市場における施策と成果(1)

一生涯のパートナー

第一生命

ベトナム 保険料等収入の推移⁽¹⁾



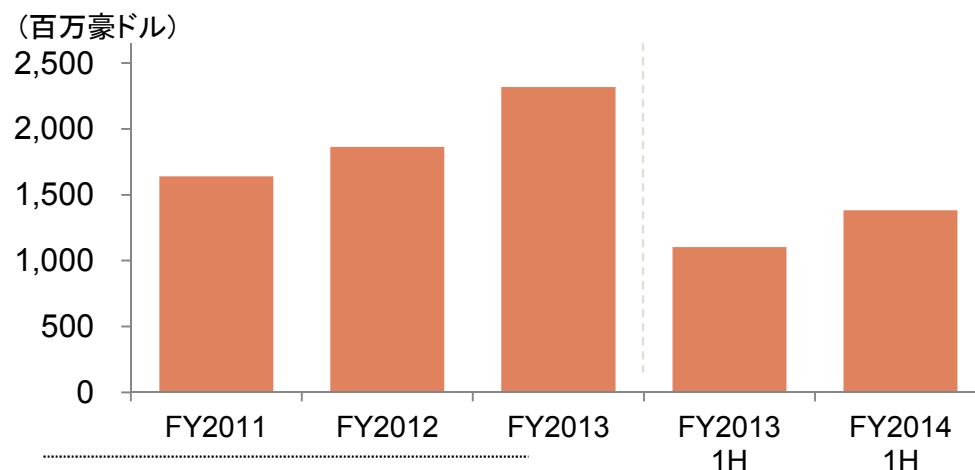
■ これまでの取り組み

⇒ 個人代理人チャネルの増強及び継続率の向上等により販売業績は堅調に推移しており、保険料等収入は順調に伸展。

■ 今後の施策

⇒ 個人代理人チャネルの増強に加え、チャネルの多様化等の取り組みを通じ収入保険料の持続的成長を目指すと共に、収益性の高い商品の開発・販売等により収益力の強化を図る。

オーストラリア 保険料等収入の推移⁽²⁾



■ これまでの取り組み

⇒ 個人保険分野においては独立アドバイザーとの関係強化や商品優位性の浸透、団体保険分野においては既契約の保険料率見直し等により、保険料等収入は高水準の伸びを維持。

■ 今後の施策

⇒ リテール(独立アドバイザー)における自社チャネルの強化、ダイレクトにおける提携強化により、引き続き市場平均を上回る成長を目指す。

(1) 会計年度は1月～12月。

(2) 会計年度は4月～3月。持分考慮前。2011年以降は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示。

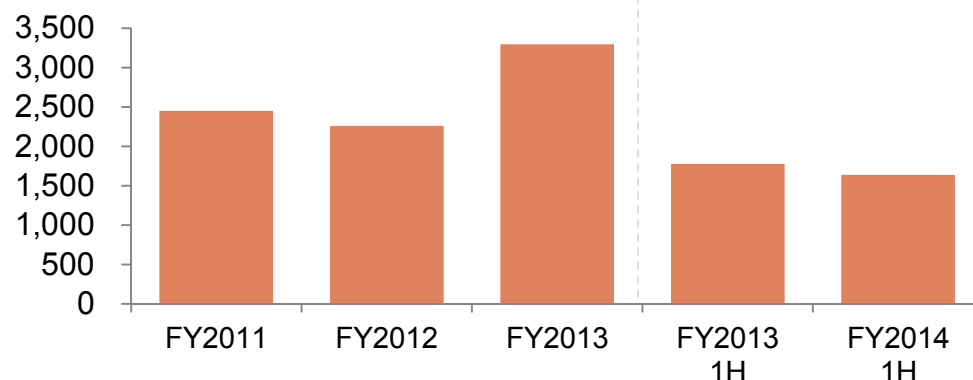
海外市場／各市場における施策と成果(2)

一生涯のパートナー

第一生命

インドネシア 保険料等収入の推移⁽¹⁾

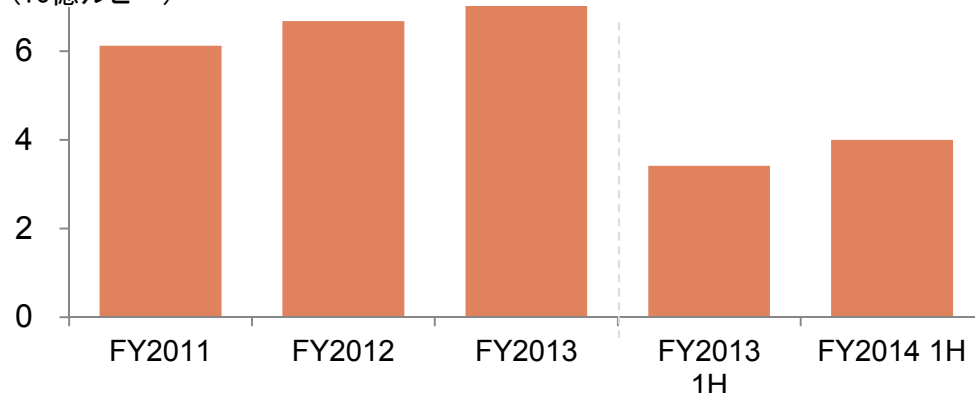
(10億ルピア)



- これまでの取り組み
 - ⇒ 中長期的な持続的成長の実現に向け、顧客基盤の構造変革(高所得・高年齢→広範囲)を図るべく販売チャネル(新規窓販事業等)・商品(一時払→平準払)の構造変革、およびこれを支える経営インフラの構造変革に着手。
- 今後の施策
 - ⇒ パニンバンクとの新規窓販モデルに係る体制整備・生産性向上をはじめとする銀行窓販チャネルの拡充、採用強化による個人代理人チャネルの陣容拡大を優先課題に、更なる構造変革の推進・収益力の向上を図る。

インド 換算保険料等収入の推移⁽¹⁾⁽²⁾

(10億ルピー)

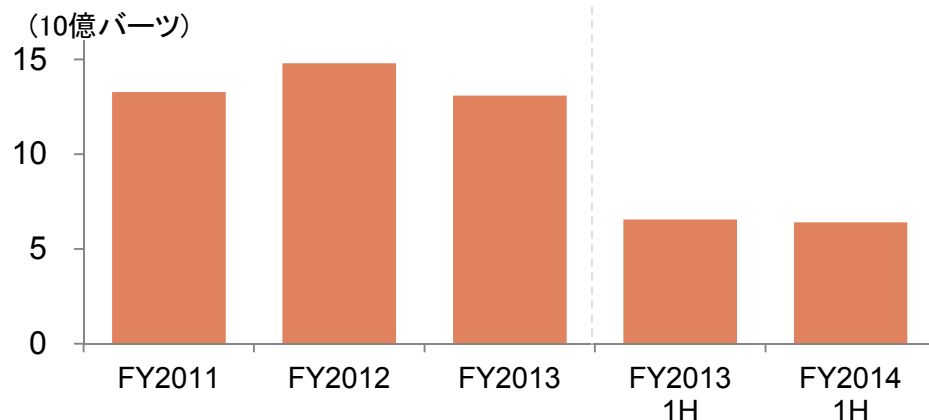


- これまでの取り組み
 - ⇒ 中長期的かつ安定的な収入保険料の確保および収益性向上のため、主力商品を従来のユニットリンク型の一時払商品から伝統的平準払商品へシフトを実施。
- 今後の施策
 - ⇒ ホールセラーの採用をはじめとするバンカシュアランスチャネルの更なる増強に加え、個人代理人チャネルの拡大、解約防止・継続率向上を目的とする各種取組を推進することで、安定的に収入保険料を確保し収益力の向上を目指す。

(1) 会計年度は1月～12月。持分考慮前。

(2) 換算保険料:個人保険の一時払商品保険料を1/10のみ計上。かつ収益性の低い団体年金保険料は計上せず。

タイ 換算保険料等収入の推移⁽¹⁾



■ これまでの取り組み

⇒ 中長期的かつ安定的な収益性の向上に向けて、収益性の高い平準払保険の販売を推進するとともに、持続的な成長に向けて主力の個人代理人チャネルの強化、その他チャネルの開発に着手。

■ 今後の施策

⇒ 引き続き主力の個人代理人チャネルの強化を優先課題として、個人代理人の教育制度の更なる強化等を通じて、保険料収入の持続的成長を目指す。

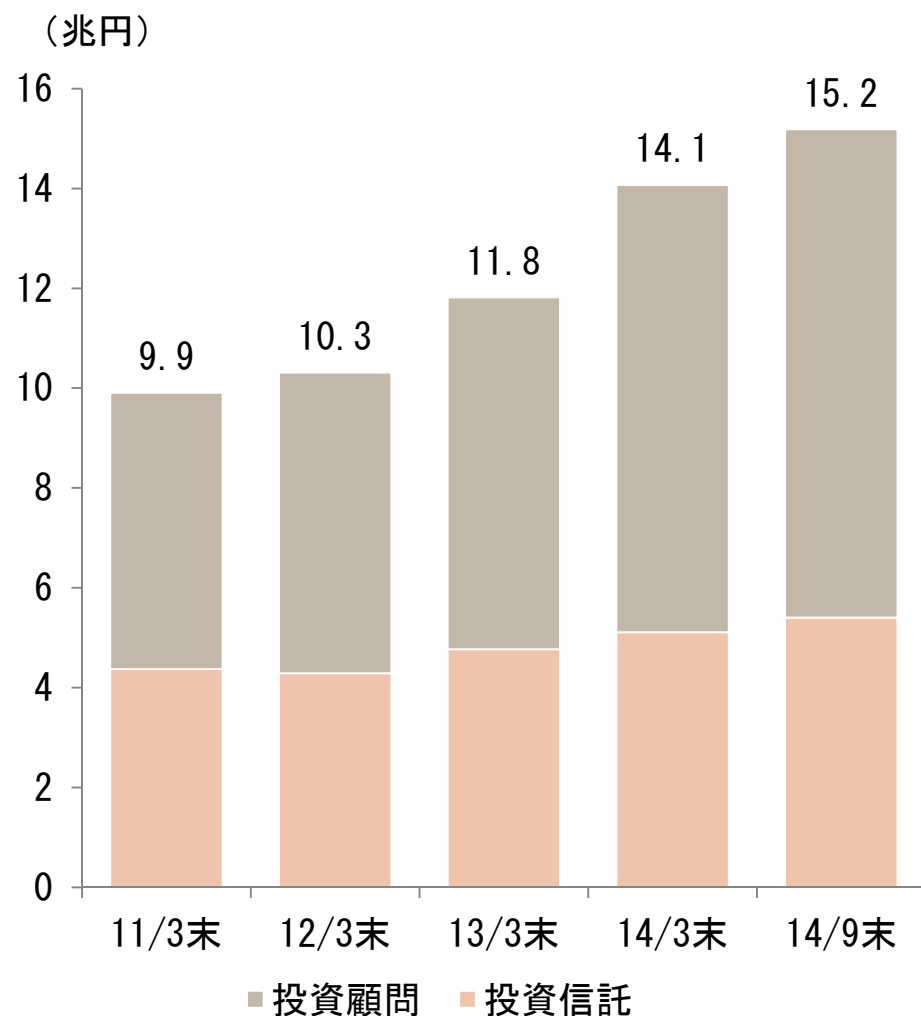
(1) 会計年度は1月～12月。持分考慮前。

アセットマネジメント事業／運用受託残高の推移

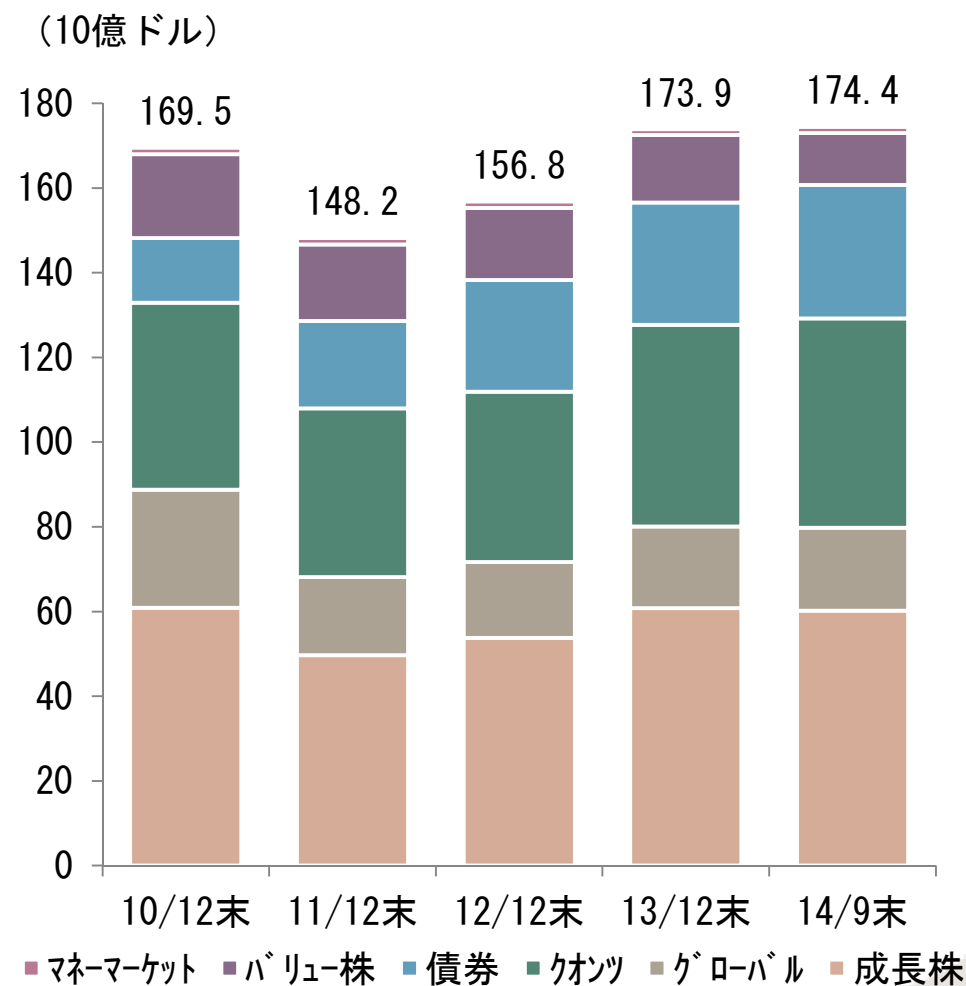
一生涯のパートナー

第一生命

DIAMの運用受託資産残高の推移



ジャナス・キャピタルの運用受託資産残高の推移



(注) 運用受託資産は、投資顧問における運用受託資産と投資信託に係る運用受託資産の単純和。

第一生命の財務の状況・資産運用

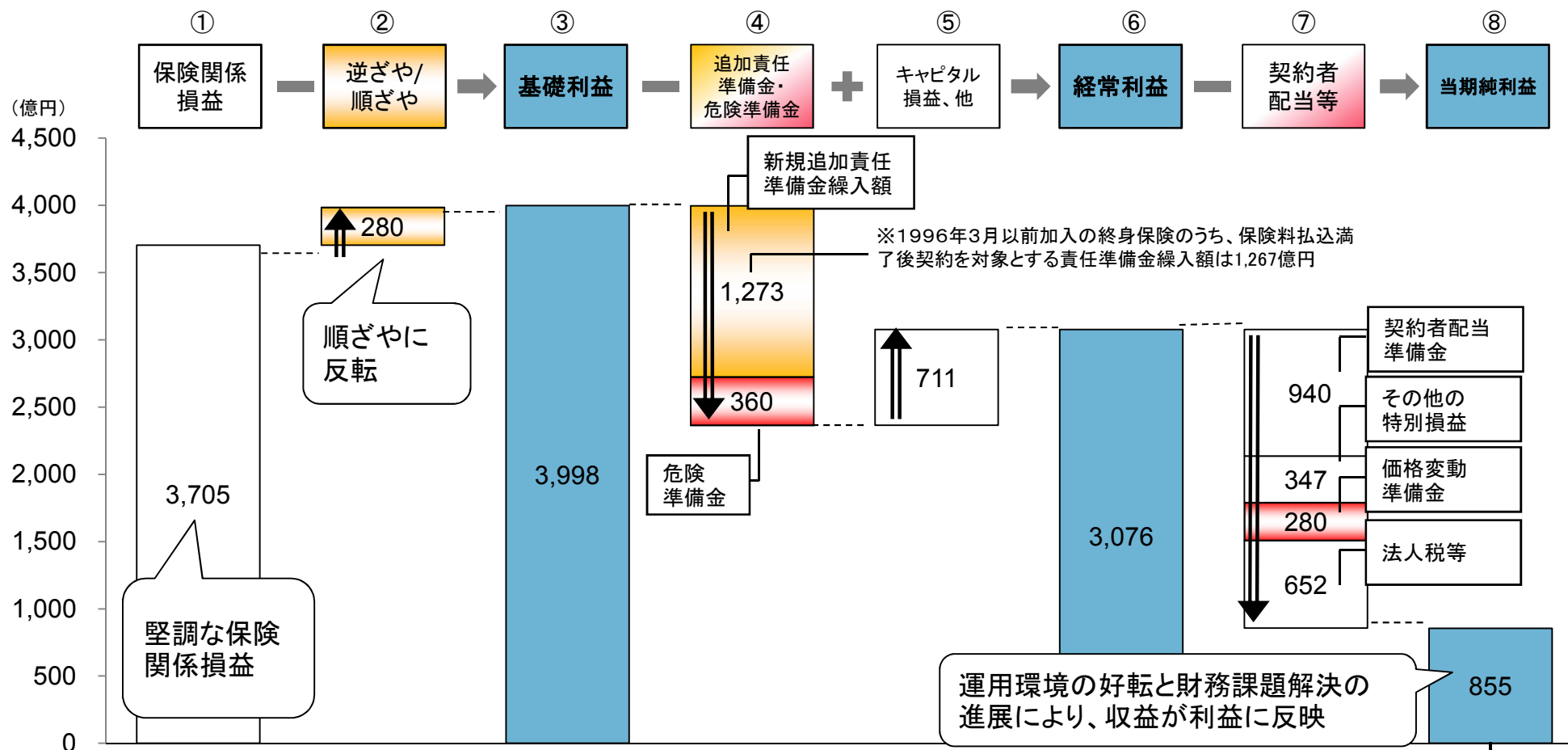
一生涯のパートナー

第一生命

成長を支える財務戦略／第一生命の収益構造(14/3期)

一生のパートナー

第一生命



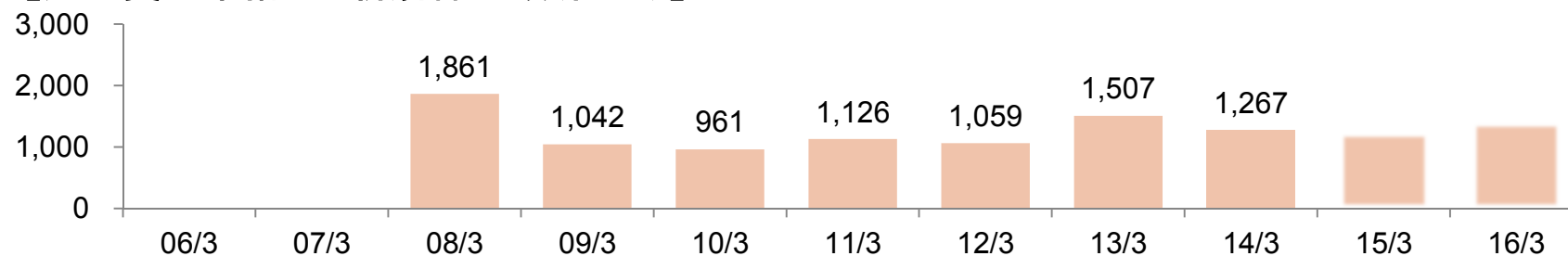
第一生命単体(855)＋第一フロンティア生命(▲169)＋TAL(86)＋連結調整等＝連結当期利益(779)

第一生命単体／逆ざやと追加責任準備金

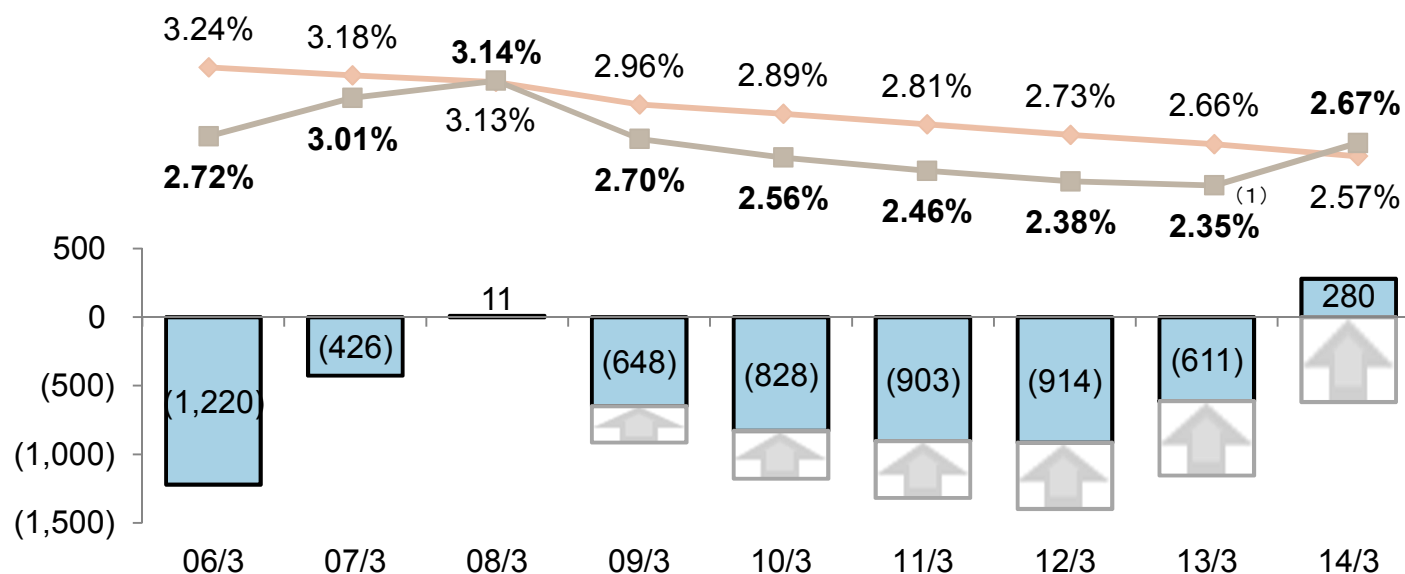
一生涯のパートナー

第一生命

【追加責任準備金 新規繰入額(億円)】



【予定利率・基礎利回り・逆ざや／順ざや(億円)】



利息及び配当金等収入の内訳(14/3期)



平均予定利率

基礎利益上の運用収支等の利回り

順ざや(マイナスは逆ざや)

追加責任準備金による逆ざや減少額

(1) 13/3期の運用収支等の利回り及び逆ざや額は、証券化した住宅ローン等債権の劣後受益権売却益を控除したベースで再計算している。

第一生命単体／追加責任準備金積立て

一生涯のパートナー

第一生命

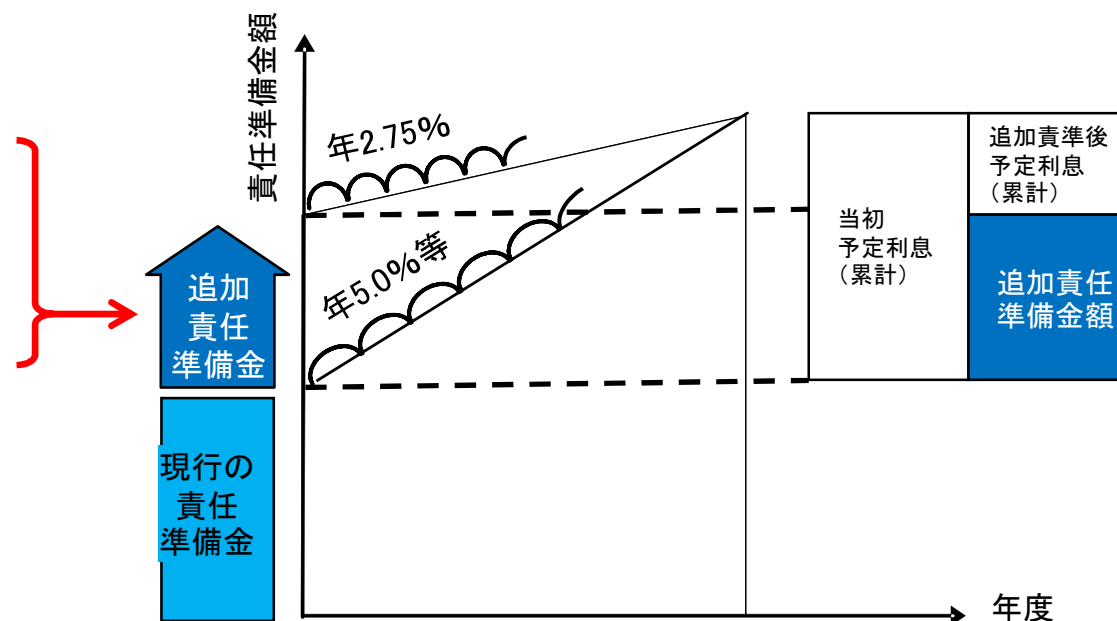
契約年度別・責任準備金残高^{(1)~(4)}

- 対象契約: 1996年3月以前加入の終身保険のうち、保険料払込満了後契約等

(億円)

契約年度	責任準備金残高	予定利率
～ 81/3期	8,097	2.75% ～ 5.50%
82/3 ～ 86/3期	14,024	2.75% ～ 5.50%
87/3 ～ 91/3期	47,793	2.75% ～ 6.00%
92/3 ～ 96/3期	40,876	2.75% ～ 5.50%
97/3 ～ 01/3期	16,141	2.00% ～ 2.75%
02/3 ～ 06/3期	22,144	1.50%
07/3 ～ 11/3期	38,816	1.50%
12/3期	10,420	1.50%
13/3期	10,201	1.50%
14/3期	9,093	1.00%

追加責任準備金の積み立てのイメージ⁽¹⁾



- (1) 第一生命単体ベース
 (2) 個人保険及び個人年金保険の責任準備金(特別勘定の責任準備金及び危険準備金を除く)のみ表示しています。
 (3) 契約年度別内訳については、一部保険数理に基づく合理的方法により契約年度別に配賦しています。
 (4) 予定利率については、各契約年度別の責任準備金に係る主な予定利率を表示しています。

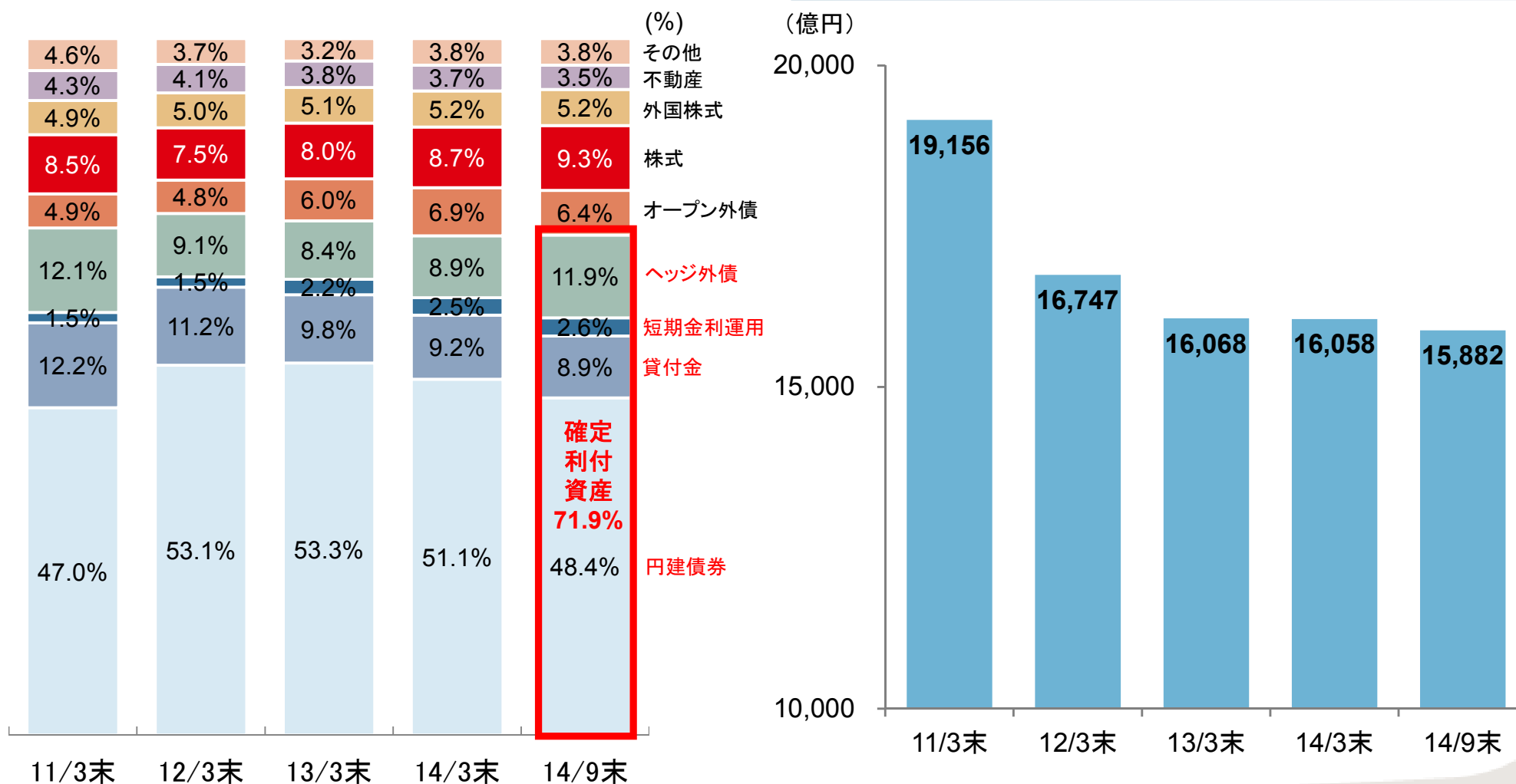
第一生命単体／一般勘定資産運用の状況(1)

一生涯のパートナー

第一生命

資産の構成(一般勘定) (1)

国内株式の簿価 (2)



(1) 貸借対照表価額ベース

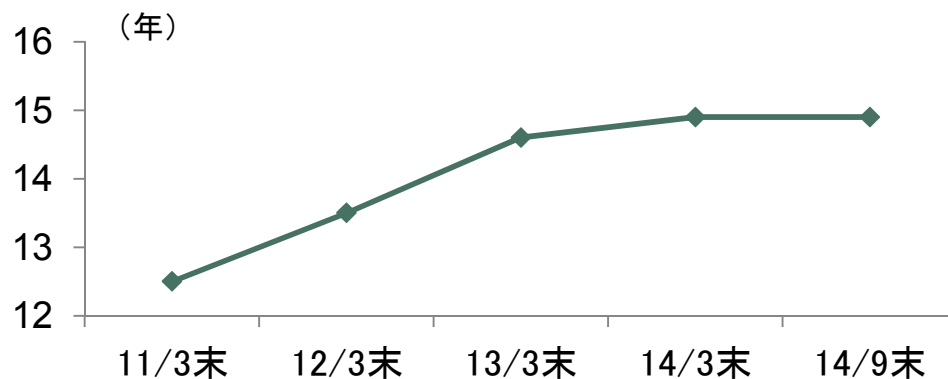
(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

第一生命単体／一般勘定資産運用の状況 (2)

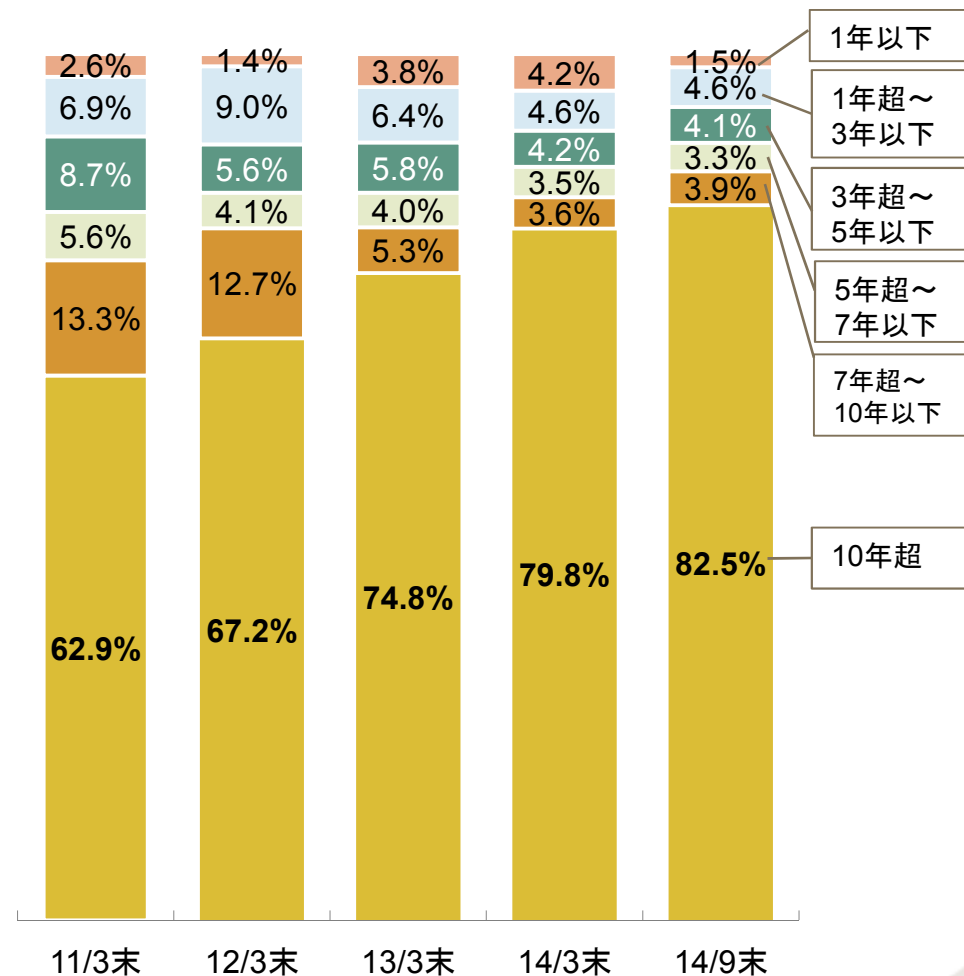
一生涯のパートナー

第一生命

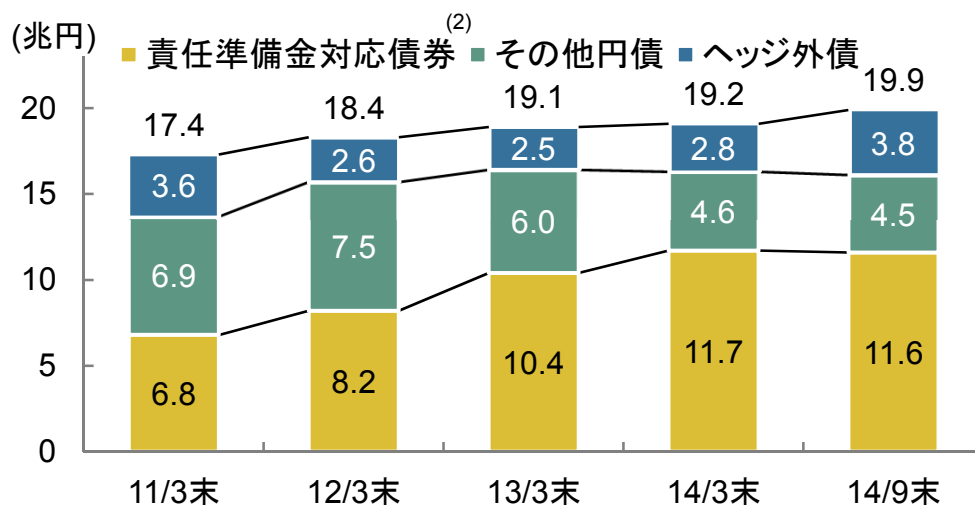
確定利付資産のデュレーション



国内債券の残存期間 (3)



債券の積み増し状況 (1)



(1) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象とする。簿価ベース

(2) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められている。

(3) 一般勘定資産のうち国内債券を対象とする。貸借対照表価額ベース

第一生命単体／金融市場への感応度(2014年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2014年3月末: 1,700億円)	日経平均株価 ¥8,700 (2014年3月末: ¥9,200)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,500億円の増減※ (2014年3月末: 2,400億円) ※その他有価証券区分: 300億円の増減 (2014年3月末: 300億円)	10年国債利回り 1.2% ※ (2014年3月末: 1.2%) ※その他有価証券区分: 1.4% (2014年3月末: 1.4%)
外国証券	ドル／円 1円の変動で 270億円の増減 (2014年3月末: 280億円)	ドル／円 \$1 = ¥93 (2014年3月末: ¥89)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

EEV感応度分析

一生涯のパートナー

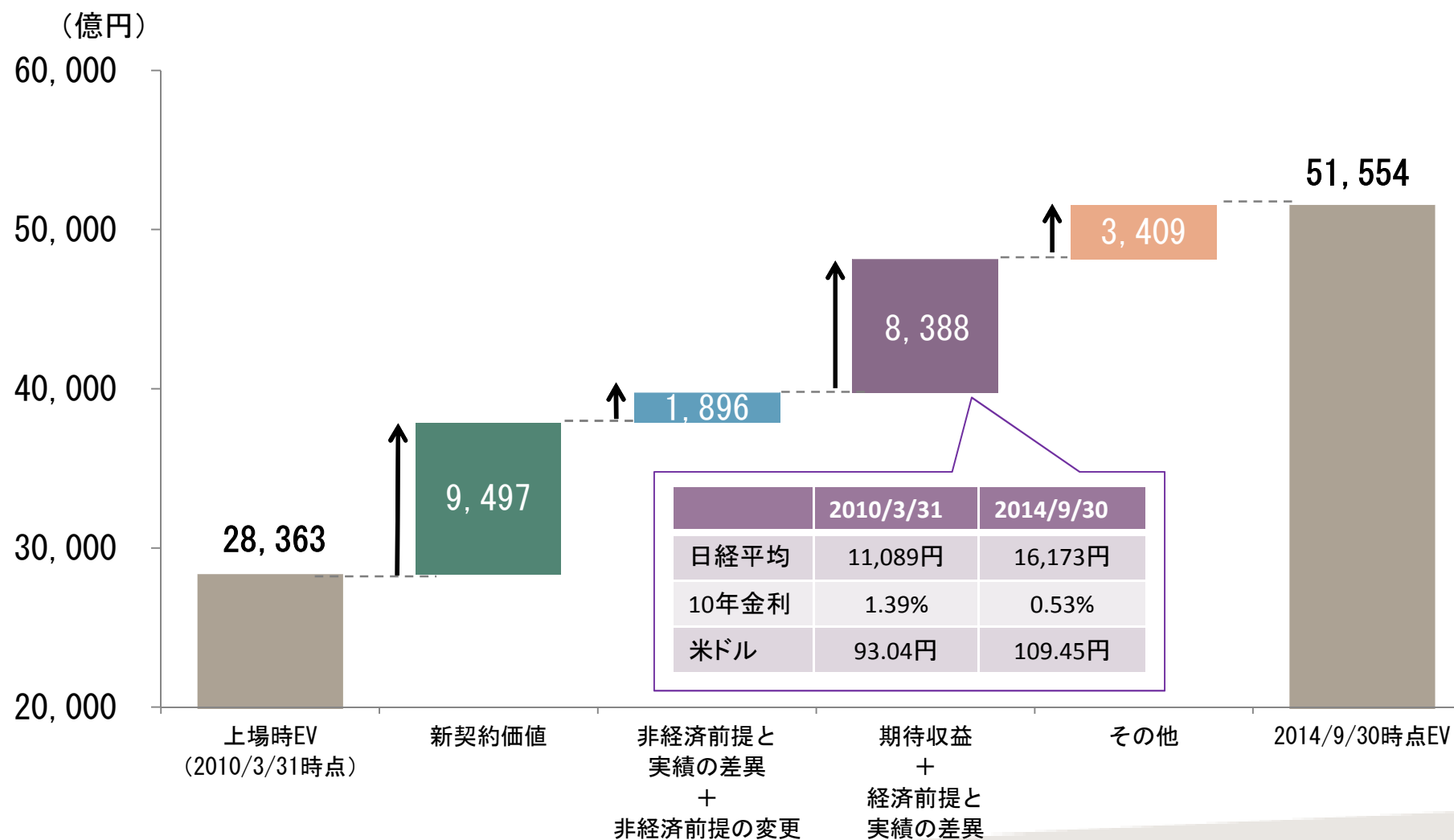
第一生命

EEVの成長を牽引する新契約価値の拡大

一生のパートナー

第一生命

上場来のグループEEV変動要因分析(2010/3/31～2014/9/30)



数値は過去4年度および今年度上半期における変動要因の単純合計値

第一生命グループのEEV感応度(2014年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (14/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	2,007 4%	△ 11,000 △ 21%	13,007 25%	176 13%	2,070 5%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 3,103 △ 6%	9,315 18%	△ 12,419 △ 24%	△ 207 △ 15%	△ 3,002 △ 7%
株式・不動産価値10%下落	△ 3,655 △ 7%	△ 3,686 △ 7%	30 0%	1 0%	△ 3,360 △ 8%
事業費率(維持費)10%減少	1,780 3%	0 0%	1,779 3%	72 5%	1,742 4%
解約失効率10%減少	2,060 4%	0 0%	2,060 4%	149 11%	2,057 5%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	1,565 3%	14 0%	1,550 3%	43 3%	1,562 4%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	△ 153 △ 0%	0 0%	△ 152 △ 0%	0 0%	△ 147 △ 0%
必要資本を法定最低水準に変更	340 1%	- -	340 1%	9 1%	312 1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	△ 300 △ 1%	- -	△ 300 △ 1%	△ 1 △ 0%	△ 295 △ 1%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	△ 107 △ 0%	- -	△ 107 △ 0%	0 0%	△ 114 △ 0%
第一生命グループのEEV	51,554			1,371	42,947

第一生命単体のEEV感応度(2014年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (14/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	2,091 4%	△ 10,362 △ 20%	12,454 25%	183 18%	2,113 5%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 3,173 △ 6%	8,816 17%	△ 11,990 △ 24%	△ 214 △ 21%	△ 3,054 △ 7%
株式・不動産価値10%下落	△ 3,545 △ 7%	△ 3,570 △ 7%	24 0%	1 0%	△ 3,309 △ 8%
事業費率(維持費)10%減少	1,701 3%	- -	1,701 3%	60 6%	1,658 4%
解約失効率10%減少	1,874 4%	- -	1,874 4%	129 13%	1,904 4%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	1,419 3%	- -	1,419 3%	27 3%	1,425 3%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	△ 153 △ 0%	- -	△ 153 △ 0%	0 0%	△ 147 △ 0%
必要資本を法定最低水準に変更	328 1%	- -	328 1%	6 1%	301 1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	△ 113 △ 0%	- -	△ 113 △ 0%	△ 1 △ 0%	△ 104 △ 0%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	△ 120 △ 0%	- -	△ 120 △ 0%	0 0%	△ 129 △ 0%
第一生命単体のEEV	50,691			1,000	42,685

第一フロンティア生命のEEV感応度(2014年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (14/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	△ 25 △ 1%	△ 622 △ 30%	596 28%	△ 3 △ 1%	11 1%
リスク・フリー・レート50bp低下	7 0%	483 23%	△ 475 △ 23%	2 1%	△ 5 △ 0%
株式・不動産価値10%下落	△ 104 △ 5%	△ 113 △ 5%	9 0%	0 0%	△ 45 △ 3%
事業費率(維持費)10%減少	23 1%	- -	23 1%	7 2%	18 1%
解約失効率10%減少	△ 20 △ 1%	- -	△ 20 △ 1%	△ 1 △ 0%	△ 22 △ 1%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	7 0%	- -	7 0%	2 1%	5 0%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	0 0%	- -	1 0%	0 0%	0 0%
必要資本を法定最低水準に変更	10 0%	- -	10 0%	3 1%	8 1%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	△ 187 △ 9%	- -	△ 187 △ 9%	0 0%	△ 190 △ 12%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	13 1%	- -	13 1%	0 0%	15 1%
第一フロンティア生命のEEV	2,099			295	1,638

TALのEEV感応度(2014年9月末)

一生涯のパートナー

第一生命

(億円)

<参考>

前提条件	EEV感応度(上段:変化額、下段:変化率)			新契約 価値	EEV感応度 (14/3末)
		修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	△ 58 △ 3%	△ 15 △ 1%	△ 43 △ 2%	△ 4 △ 6%	△ 54 △ 3%
リスク・フリー・レート50bp低下	62 3%	15 1%	46 2%	4 6%	57 3%
株式・不動産価値10%下落	△ 5 △ 0%	△ 2 △ 0%	△ 3 △ 0%	0 0%	△ 5 △ 0%
事業費率(維持費)10%減少	55 3%	0 0%	55 3%	4 6%	66 4%
解約失効率10%減少	206 10%	0 0%	206 10%	21 28%	176 9%
保険事故発生率(死亡保険)5%低下	138 7%	14 1%	123 6%	13 17%	131 7%
保険事故発生率(年金保険)5%低下	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
必要資本を法定最低水準に変更	1 0%	- -	1 0%	0 0%	1 0%
株式・不動産価値のボラティリティ25%上昇	0 0%	- -	0 0%	0 0%	0 0%
金利スワップションのボラティリティ25%上昇	0 0%	- -	0 0%	0 0%	0 0%
TALのEEV	2,074			75	1,863

財務諸表等

一生涯のパートナー

第一生命

連結財務諸表(要約)

一生のパートナー

第一生命

連結損益計算書 (1)

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	29,752	34,627	+4,875
保険料等収入	21,188	25,869	+4,681
資産運用収益	6,826	7,120	+293
うち利息・配当金等収入	3,756	4,105	+348
うち有価証券売却益	1,444	1,111	△333
うち特別勘定資産運用益	1,381	1,700	+319
その他経常収益	1,737	1,637	△99
経常費用	28,191	32,284	+4,092
うち保険金等支払金	14,163	15,689	+1,525
うち責任準備金等繰入額	7,876	11,097	+3,220
うち資産運用費用	1,345	579	△765
うち有価証券売却損	392	55	△337
うち有価証券評価損	12	5	△6
うち金融派生商品費用	239	45	△194
うち事業費	2,551	2,812	+260
経常利益	1,560	2,343	+782
特別利益	17	7	△10
特別損失	272	128	△144
契約者配当準備金繰入額	402	464	+61
税金等調整前純利益	903	1,758	+854
法人税等合計	442	524	+81
少数株主利益(△は損失)	△18	0	+18
純利益	479	1,233	+754

連結貸借対照表

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	377,051	399,348	+22,296
うち現預金・コール	10,613	11,761	+1,147
うち買入金銭債権	2,818	2,750	△67
うち有価証券	312,035	332,156	+20,121
うち貸付金	30,247	30,535	+288
うち有形固定資産	12,158	12,045	△113
うち繰延税金資産	57	15	△42
負債の部合計	357,575	371,945	+14,369
うち保険契約準備金	333,275	344,195	+10,920
うち責任準備金	325,749	336,742	+10,993
うち退職給付に係る負債	3,854	3,720	△133
うち価格変動準備金	1,181	1,259	+78
うち繰延税金負債	151	1,794	+1,643
純資産の部合計	19,476	27,403	+7,927
うち株主資本合計	6,285	10,100	+3,815
うちその他の包括利益累計額合計	13,184	17,294	+4,110
うちその他有価証券評価差額金	13,227	17,167	+3,940
うち土地再評価差額金	△383	△385	△2

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益には影響するものではありません

第一生命(単体)財務諸表(要約)

一生のパートナー

第一生命

損益計算書⁽¹⁾

貸借対照表

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	22,082	22,568	+485
保険料等収入	14,274	14,954	+680
資産運用収益	6,150	5,888	△261
うち利息・配当金等収入	3,698	3,885	+187
うち有価証券売却益	1,378	1,095	△282
うち特別勘定資産運用益	911	779	△132
その他経常収益	1,658	1,726	+67
経常費用	20,364	20,327	△36
うち保険金等支払金	11,821	12,745	+923
うち責任準備金等繰入額	3,252	3,018	△234
うち資産運用費用	1,058	585	△473
うち有価証券売却損	391	54	△336
うち有価証券評価損	12	5	△6
うち金融派生商品費用	187	29	△157
うち事業費	2,065	2,006	△58
経常利益	1,718	2,240	+522
特別利益	17	4	△12
特別損失	269	120	△149
契約者配当準備金繰入額	402	464	+61
税引前純利益	1,063	1,660	+596
法人税等合計	423	493	+69
純利益	640	1,167	+527

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	340,288	353,814	+13,525
うち現預金・コール	9,084	9,812	+727
うち買入金銭債権	2,758	2,689	△68
うち有価証券	280,051	292,282	+12,230
うち貸付金	30,231	30,520	+288
うち有形固定資産	12,155	12,042	△113
うち繰延税金資産	111	-	△111
負債の部合計	320,569	326,298	+5,728
うち保険契約準備金	297,440	300,085	+2,645
うち責任準備金	291,992	294,966	+2,974
うち危険準備金	5,310	5,400	+90
うち退職給付引当金	4,071	3,938	△132
うち価格変動準備金	1,164	1,234	+70
うち繰延税金負債	-	1,542	+1,542
純資産の部合計	19,718	27,515	+7,797
うち株主資本合計	6,962	10,705	+3,742
うち評価・換算差額等合計	12,749	16,802	+4,053
うちその他有価証券評価差額金	13,158	17,006	+3,847
うち土地再評価差額金	△383	△385	△2

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

第一フロンティア生命財務諸表(要約)

一生涯のパートナー

第一生命

損益計算書

(億円)

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	6,578	10,779	+4,200
うち保険料等収入	5,957	9,558	+3,601
うち資産運用収益	621	1,220	+598
経常費用	6,759	10,737	+3,977
うち保険金等支払金	1,731	2,077	+345
うち責任準備金等繰入額	4,454	8,097	+3,643
うち資産運用費用	330	31	△298
うち事業費	221	476	+255
経常利益(△は損失)	△181	41	+222
特別損益	△2	△7	△5
税引前純利益(△は損失)	△183	33	+217
法人税等合計	0	6	+6
純利益(△は損失)	△183	27	+211

貸借対照表

(億円)

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	33,924	42,422	+8,498
うち現預金・コール	780	1,015	+234
うち有価証券	32,206	40,204	+7,998
負債の部合計	33,440	41,826	+8,385
うち保険契約準備金	32,883	40,981	+8,097
うち責任準備金	32,858	40,944	+8,085
うち危険準備金	1,072	1,159	+86
純資産の部合計	483	596	+112
うち株主資本合計	403	430	+27
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,446	△1,419	+27

豪TAL財務諸表(要約)

一生涯のパートナー

第一生命

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

	14/3期 2Q累計	15/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,372	1,585	+213
保険料等収入	1,102	1,382	+279
資産運用収益	158	99	△59
その他経常収益	111	104	△6
経常費用	1,323	1,489	+166
保険金等支払金	748	916	+168
責任準備金等繰入額	251	211	△39
資産運用費用	16	18	+2
事業費	264	287	+22
その他経常費用	42	55	+12
経常利益	49	96	+47
法人税等	19	24	+4
純利益	29	71	+42
修正利益 (Underlying profit)	46	78	+32

(百万豪ドル)

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

	14/3末	14/9末	増減
資産の部合計	6,086	6,387	+301
現預金	676	853	+177
有価証券	2,852	2,851	△0
有形固定資産	0	0	+0
無形固定資産	1,271	1,251	△20
のれん	791	786	△4
その他の無形固定資産	480	464	△15
再保険貸	72	108	+36
その他資産	1,213	1,321	+108
負債の部合計	4,184	4,413	+229
保険契約準備金	2,960	3,128	+167
再保険借	385	403	+18
その他負債	721	776	+55
繰延税金負債	117	105	△11
純資産の部合計	1,901	1,973	+71
株主資本合計	1,901	1,973	+71
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	270	342	+71

(百万豪ドル)

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

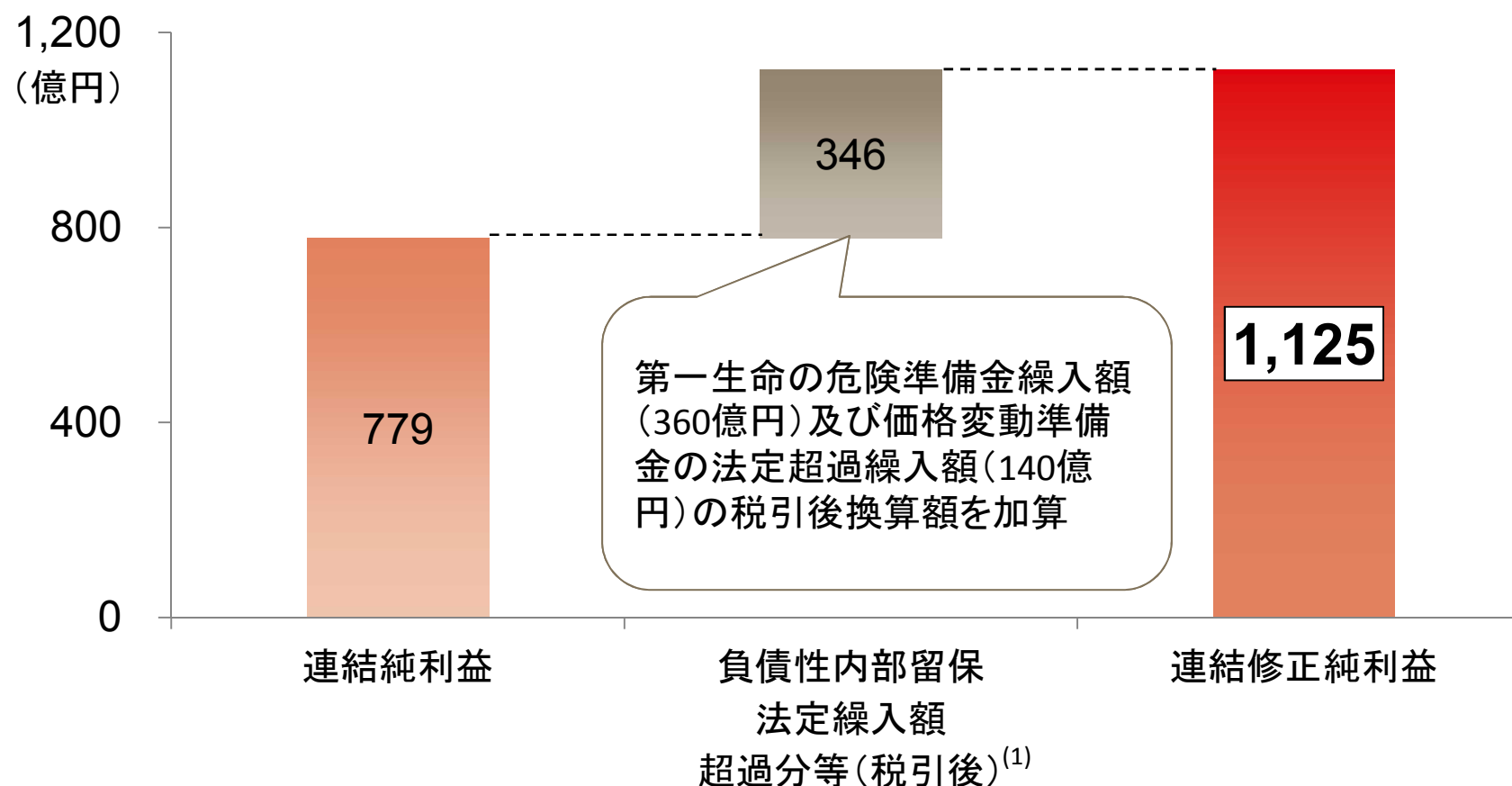
(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

14/3期連結修正純利益

一生涯のパートナー

第一生命

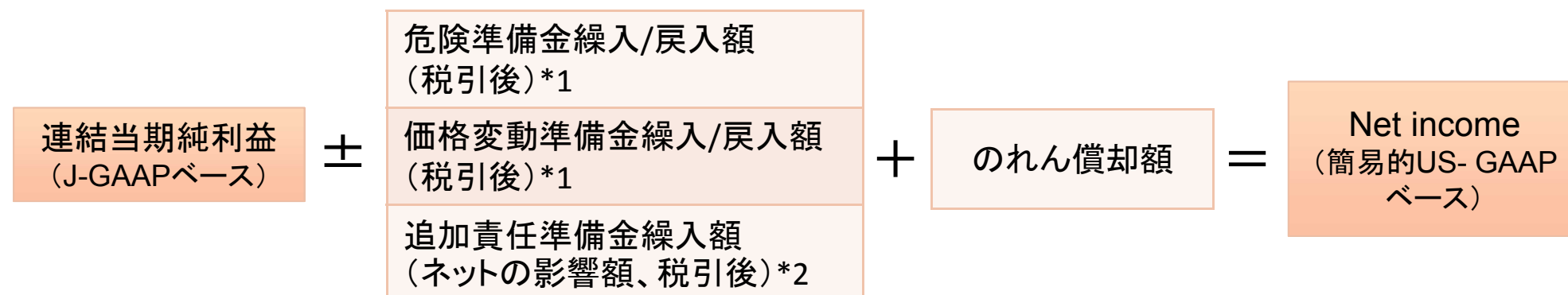
- 第一生命グループでは、株主に実質的に帰属する利益指標として、当期純利益を調整した「修正純利益」を設定し、中期経営計画の経営目標としている。
- 14/3期の連結修正純利益は1,125億円と、13/3期の976億円から着実に増加



(1) 負債性内部留保(危険準備金繰入額、価格変動準備金繰入額)のうち、法定繰入額を超過した分を加算する(取崩しの場合はマイナスする)等。
金額はすべて税後換算(実効税率30.68%を適用)。

(参考)簡易的US-GAAP利益指標の算出プロセス

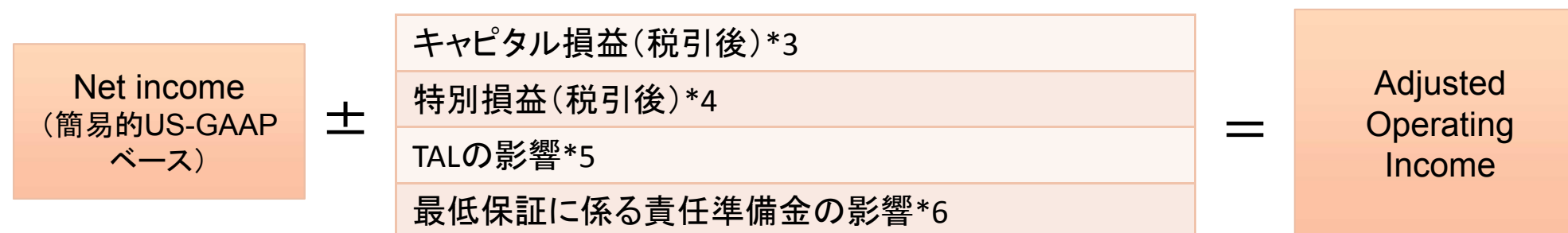
(1) Net income 算出



*1: 第一、DFL分(繰入れの場合は純利益に加算)

*2: 第一分のみ(追加責任準備金新規繰入額、追加責任準備金による逆ざや改善効果等による、ネットの影響額を純利益に加算)

(2) Adjusted Operating Income after tax (“AOI”) 算出



*3: 第一、DFL分(ネットでキャピタル益の場合はnet incomeから差し引く)。なお、第一の為替差損については大半がヘッジコストのため、キャピタル損益からは除外(経常的に生じる費用のため、AOIの構成要素とする)

*4: 特別損益のうち、価格変動準備金繰入/戻入額を除く(価格変動準備金はnet income算出時に調整済みのため)

*5: TALの純利益と修正利益(Underlying profit)との差額を計上(一部内部取引の影響を除外)

*6: 第一、DFL分(最低保証に係る責任準備金を繰り入れている場合、繰入額(税引後)を加算)

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。